うつぼ物がたり

# 錦郷里會

内閣文庫

むかし或新の大補たち[illegible]あり
きりぬき子腹よりものとなる二人ばかりなる乃心ごと
[illegible]ありすべ[illegible]ありいとけなくしてきよ[illegible]
あるひめんやうをんんとて文もよく[illegible]ど云教る
おとこもすくてあり[illegible]川あり[illegible]年あも合ど長たう
く云うしあ[illegible]七歳ふう[illegible]年文ごろうへよあふ
ふ山ずるとせるる子文をりど況てゐる羅人と文を
況ろうなりなれどあり[illegible]やをふきこしめて
あやしくめづらしきことなりぬで云うんとあ[illegible]
ものどに十二歳ばかりなる[illegible]御門をゐる

夏而えうり。年代記きやどに伝えんとあ[illegible]て。
[illegible]ゆよ三あびらとられおみたてれ八人と
いのをめてぞ記をおさせて心ざを始ぶび
くりがり海岸をやくのさえあるものこれて
まどひとて一ぐりれみとあてまてぬよ。
後藤ながもれ紙いとゆるく作りてを
遣唐使ゆ一天下れ人清いひあざみてそるび
後藤一人さんしおなりぬ乃年あるしえろ
せをめて秀れ記を海ふ校書屋して自た
く記を始てぞくとを屋そうを心ふ清て



[illegible]ぞくれ[illegible]ふこてある。記さくの文ども
面白くきうて西門花どろをあひて別式
部惣ようをられぬを後藤が[illegible]清らよ
れ[illegible]ひれるさうふぞをへさうれ。父母
服だよ二をとれりあやどふ。後藤十六歳よなる
う唐土よ永出。そをふこてをみはをよさ
えうこを人成撰で大使ひそへづひと光
をよ後藤ゆ面をぬちはゆ副使む事う
ふををへさうれ。一生に独をよなり

かるち所なく人まつぐまこうり朝よりんてみよれた
をおのこ面おどぶにおれ後をもふのるろ明る
行よあひうん幸乃くるれ乃よあ之父母と
う老めすーこおりひ面るべーこ三人のんひこの
をけどんて血乃後れたこて。知ちそつ升よ無に
乃りぬもりに小ふ動んとするなどよおこの風
嘆くく三所る無二四ハそこるれぬ多れ人去
ひこぬるあに。後落う無ふたる國ハよそ明こ
迷ぬどる魚の漬ようちまて後ちて悲き
よ後をるぐーて。七歳より後落う洗ふまた家

年をるあ〜ハ迷命まんと。朝蒲れ午搖を金ぐこ
てまるふ乃る歌ぐにこんこぬ法りよ。鞠まこ子まの
き馬ひて花どりありきていなくこと落
七友伏祥ようるもしまと花りふなどよ。
あと鞠小乃せてこびよ高しきぞる
しれせんぬんれ陰よ虎の皮代表て。三人乃人
あこび居て琴をり門あそぬころよお縛しとき
てひまんこえうせぬ

やうを林のうちにそうりこの三人の人同じくいとくかをしハ何それ人ぞと蔭景日かたのまれ使清原の後蔭のうちにて様ハかくとこの時三人あるれ猟人よこそなのうまこのづ宿さんりとこたてのうべあ未だ蔭より同皮をあてとこの人衛蔭のうちにれ山ありの時も心のよ入ーの物のまとなりしをこの三人こそ琴のをのこのうちにうまこのぞのあるこのふよ部とのの乃ほのこさんなるひとりの人。花の蔭の和歌乃葉乃三づくに成あめてのうちのうるよ所る年れまうりきけむ山林うるまみにに木をあるとのの声とるるにやあ。

きゝよろこばるゝの意なるべし未だ響いたゝ
しかゝるべきを未うれとゝひて琴をかき文を
ぶみして招きくゝぶ三年ぶ未だ応ずあえぶ月
日もまたたのゝ川琴ひきぶきよひぶき通ひ
うれぶとうぶをぶみぶらぶのとゝ思ひ招きて
をみめぐすまよりもれきてゆんぐぶ夫
ぶ面ろ筆ぶもろハいるぶ水乃あんれさ
づゆめて琴ひきぶ水ぶりぶんとゝひて
やうぶ三人の人よりぶをこひて斧ぶ声乃

中分ろうぶとゝ是をあしてぶこゝ紀力をたゝびて
海川厳谷をもてぶこゝ年巻あくゝ谷とゝを
くゝ通ぶ三年と云年ぶ巻ぶさるる厳よりう
てみめぐぶせぶぶぶきぶ夫ようゝそ行ぶきぶ
そろうぶんぶ後落いさまり紀心早さ是をお
ぶうゝめよかゝてゝゝぶりてゝん後ぶ
ぶよろ谷ぶ底よ根ぶさてゝまいゝをあようき
枝ハとぶりの図ぶさぶうり相のあ紀ぶりて
ゝうゝ二つゝ谷拍ちぶゝらぶ髪をゝん通ぶ細をゝそう
ぶごとゝ首をみ通ハゝぶもゝをぶぶゝうぶぶゝ是ぶ

とゝまはすき鉋のごとし眼をとみれば[illegible]
ごとくにうつくしきをとこ[illegible]
てうつべとつゞくて[illegible]
めてもちゐる物多いとよりかゝ[illegible]
[illegible]
ぬのもとをたゞ[illegible]
しるを昔月年国[illegible]
とゝ[illegible]
てひとゝ[illegible]
とゝして海[illegible]

かゝるまで[illegible]
人乃をもゝ[illegible]
をゝるをゝ[illegible]
ゝ[illegible]
たまゝ[illegible]
乃梅[illegible]
ひ出[illegible]
しこ[illegible]
出るまで[illegible]
そやの[illegible]

めの毒地より向てゝりて
傾し林よりは山をあづけ父母がゝを別
日よりはまでれすをあるふのとそ我む
うしおうしく罷よりあきの明をうきそう
ちうあまべ恵厚れんぼうにあるべき
うあれたる月本あるよ恵厚れ父母ありとよ
りて四十人のおたれ悲くるんぼうんで
くれうれうきにはりて命をゆるしぬ
屬
うんちもとやうにまりあすれあた
大叔若を書佐養せよ海日れなのちはよ

ひとべさ後とあるんと云はよ後落伏作て
ゝる月れとりは山ばるあるおかいる海
んぼうんちくくあるして一生よ独子史
わやれうみのあれく恵れあるとを
拾て国王よおりせのこかりたりてと
きりそれ父母紅の涙を流てのこ海るうん
ぢ不孝のおすもび親よもさ欲とあるせよ孝
うのおすべあるれ浅よむうんとれ落
ひさ海をとう落あるこの風おもひある波よ
あひておりれとるぢとれ海ぼ一人ちぬせ

ゑのたぐひにて年久しく成ぬるわまべの琴
のおもかげこれ羅漢寺のうまんこめいぶつ
本尊ゑこう法師にて年は若せうちくに琴
の音をやせそぞのめいくちうさんと云時よりのすく
いやまずくふいうをそいてくるしき世ぐるいの命を
そぐめんとてもぶ本尊一すをもつべうぶつ命八世のよく
毋佛よ廣法師一日おめうろみこうり申てぶ年
りまを毋にてよ天女吉祥天女ゑ絵ゑ
ゑ作てが天女乃ゑまハ行すゑ此美
初の羅うぐどうん世に山ゑり面ふさゑゑぐ

きんりのぐぶ対よ面ゑ分てぶ
すゑ三宝ゑりぐめなりてぶ
む中ぶ法れいされ乃親よ
くまのゑぐもにむくりん
さゑ山ちとうぐれてぶ
林よ天女ゑりまくてゑ
ゑやゑくゑゑ美ぶ
ぐ氏年月すぐゑりゑ
むぶ面ゑさ面乃ぐきんゑ
乃ぐ一ぶ氏ゑくゑ

と云て。酒人う食んとて。そうの河よりたまうひろ〳〵うり
て。車ゝよりのぞくうの面ゝりいろづらひ〳〵めしで
詩よのまるワ〳〵ハこゞよのれとおすゝにさせて
乃がりぬれをみまいがをうをかるうたれまの下ぬ
うの月ちの前生後蓮よせたとうまりいすう
ちさにおどろきそ。ら蓮をセ玄ゝ鉢こお
みたうと天女乃ゆ来のゆりよしておりゝられと。
ゆ〳〵ときていく〳〵ぬまれ天大梅酒
乃本ちり。すとちて。ひすきかとたくに。ゝ方ぬが
うがしやのゆ〳〵通ぬへさまちり下れ月かちを

もちてうんかぬ沢ゆ〳〵と加べきく云て。あるとう本
とゑのぞ〳〵ちりこ沢ちるふひぐきよおめちろ沢み
ちり河ゝしくて琴ゝ三十つちりの乃がりぬ〳〵くて
刈ちんどやちくしてそ天女ぐるまりてう河
ぬりもタをちりすぎさせてのがりぬ〳〵て三年の
琴とちりく。後蓮法あ乃林ちり西ホあれ。
梅檀乃林ちゝ川乃ひてこれ琴乃ちぬ川みんと
て生ちぐ〳〵ぬ辺風おこさて三十れ琴を遊ふて
こゝ少そ者を絃ちゝ一十八をれ邪ゞ声ちりかちゝを
二ちたくまちゝ山ちゝ山ひ

[illegible]ゆすりあげて[illegible]きらく流[illegible]さ林より出
すぐめて聖されたまのちうばりうさきそあそあ。
三年と云年の春ぶ山より西よりあくれる花園
ふうりて琴をすくべ[illegible]て大なる花の開れば
よ富りく我ゆのそ父母乃ことゝる者つく
浦りうう二れ琴をあろんふ春乃日のごゝな
ふよ山代みをいるすこりう林ばんれでは
れ月ゆりて[illegible]花ぞのの盛よ有り[illegible]く照日れ年
春部くうりゆ琴れ[illegible]きくそ[illegible]ありたて
く[illegible]ゆ河よ[illegible]よとんぞやしらく[illegible]て巻乃

雲ゆの[illegible]る天人七人つ[illegible]て[illegible]
花ぐこそ行あそぶ天人花乃よりありのて乃こ
まりくおりれうんそ乃人々春ば花ん秋を紅
葉をみふとて[illegible]くう西山ゆるれば蝶鳥ぐ行
ようそあよ西ようさす西のはとるぞ[illegible]花よ
[illegible]すりぐ行り[illegible]人とれなぶ
[illegible]花[illegible]ゆ[illegible]西ぞやくりゆ仏の
西ゆゆとも[illegible]でぞやうれるゆとゆんとる
て年来こうり行しく菩天人日ゆ[illegible]ば秋ゆが花も
ゆ西ゆ[illegible]人すれば[illegible]りりりぞ天乃捉[illegible]て天の

下に琴ひきぶつ人ふたりあり我それむ
かしいまだ[illegible]ありしとき家より西佛[illegible]
ちかハあなたなる西ハてもとせありてそこに
秋ふ七人あり[illegible]ふ人ハ[illegible]浄土[illegible]
琴をひきあそぶ人乃[illegible]ありそこよりてら
人乃[illegible]光て[illegible]ふ三十ハ
あとに中[illegible]声[illegible]ハ我名付[illegible]
うんぜと付[illegible]琴[illegible]
で[illegible]人乃[illegible]
[illegible]の琴[illegible]

樂世界ありとも[illegible]
信蓮天人のもの[illegible]
てりかゝやいる川ありそこ川より[illegible]
その川を渡しに琴をひ[illegible]
より西へ[illegible]ハ[illegible]
琴ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

所より遠りぬるところ山をみるに梅檀の森
陰より林の花咲乱れて琴引人年三十ばかり
みてもを僧侶立居たゞむ山乃あるを
どろきて見ハ人ぞと思ハ法華経
の僧侶まゐりさうの事ハ聞くれば海辺
ぐちんぐら何よりあるまじきあるの
花ぞとものが親ひ通ひ給ふ乃
みとみ見ど花ぞのうりと空ハ仏の通ひん
らをたうくとそ問ふの法よとへるま
ばらし法華問ふ

後蔭をしめりけれとをくりくりとけれよ迎風
迎いの乃琴ごとりみかあれどくとをりそれ
可よ山れあるど後蔭が琴れ事紙心をそれ
みれてごーうまとつ称ひて二つと云山よ
入れかけ可ーをう山乃あるどめづーがり紙まらう
とれさをえんかあやーう蓮花の花でらとと
云人乃をつ迎ぐてれあんかーく乳おされ
を一さんかあてまりつとを乃をへぐあか
ど乃く迎ごりて云人つ迎て云ーと云山よ入かあ
をこうもたかどこうことのれひて云人れまを

雪と云山ふのなかをとをもあかーどあくこの紙ひて
あ人つ迎て行くくへ入かあぐをこあもれかどすれ
かひて六人れ迎てへかぐをこあを用すの紙
ひくくを人つ迎て入かあぐれ山乃を海八心とか
つを山の他八鶏鶏かり花をみ迎ぐ白ことに紅葉
ををんれぐくかあとにからうに浄おぐくの声
風ふまーどうまてらくくをを花のをよハ孔雀に
迎てあをぐとをろふを人つ迎て入かあをを山の
あるーどをあーどを紙れかーををとびう
をりうかあ可よ西ちくををを海をくを日ちれ人

蓮花はなぞのゝうちとてあれどゝ紙ぶゝさ為
しきにうん花ぞのゝ紙きても古人の道ぶゝは
とゝうこゝぞりてあそまぐさつるこのゝ爾
みゝはれあるゝとゝ月ぎにのあゝぶゝの道ハ天上よ
りまゝこゝろあひ一人乃ゝあたりぶゝ山ゝあ
ひて七年ぶゝひ一なゝぶゝ山一年よ一人ゝあん
くゝ七人のゝとゝぶゝとゝりたゝぶゝのゝぶゝとゝをゝ
きぶゝん指ゝく天上ゝうゝ多ひゝふゝぶゝさ乃
道ひゝあぬゝ初ゝ花の多ゝくゝやゝとう
ぶゝ為業はれ野ゝとゝぶゝさとゝあぶゝはりゝあゝ

新乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ浅ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]まれ声するりみよゆきとうのみ河よ
瑞門よにりて新那のうふいてりて同始て。
なんぢはなんそれ人ぞと問みよ七人乃人
みな礼あしてよりて報て菅教華天の間
のんの龍ぢりりいてくるぬれてたう
つる天乃てる女を母としてゆせうはまれて七人
乃ともづを問みよ行とそよあひんるとて
しんてはるれらぢされ面みとてりとて。
ちてみるんのれりさにるれてるぢたどい
てるりとりみ文瑞門よ河よ

仏文瑞をりつまて雲の裏よりて波河よ
山川つのれつ花せぢあゆてりてたそひぢさ
てをれ色枕の初メうりぢ芸れ秋乃紅葉
河りりぢ咲まぢ河まにはあをい人らりてぢ行
そびまりかなどに御ともりりてもれてら
れ萩よりて花のとうあそびるみ河よあ
そび人らはみぢていとにあてて七月
七夜会ぢてまつる時よ仏あてまての海
ちくぢんぢてくひてつとめてくいて志ハ
懐りしみりてとそ河天の人とひまれる

きこゆ今あるこの一かのもしこのむ物ん乃ひしくいよあ
ふしぎ龍ふむまれたりそれ屋ちくうきふ
ちりそと此目乃りと此ものなかなと世とふ人の身
とうくべきりのくはくべきとあいふふとのくべき此
乃世おいんちくの龍かもちりなーそろあまべ橋迴
して二人がちちに八しやうやどうこ二ふ人がちう
ちとものくえーしやうやどぶべーそれ屋どぶべき
毋一人人乃身をくべきんふーそろあまど首
大そむちんちくちしねんありきそれ此人の
せーちふむーきんどんだやけんちる国ちき

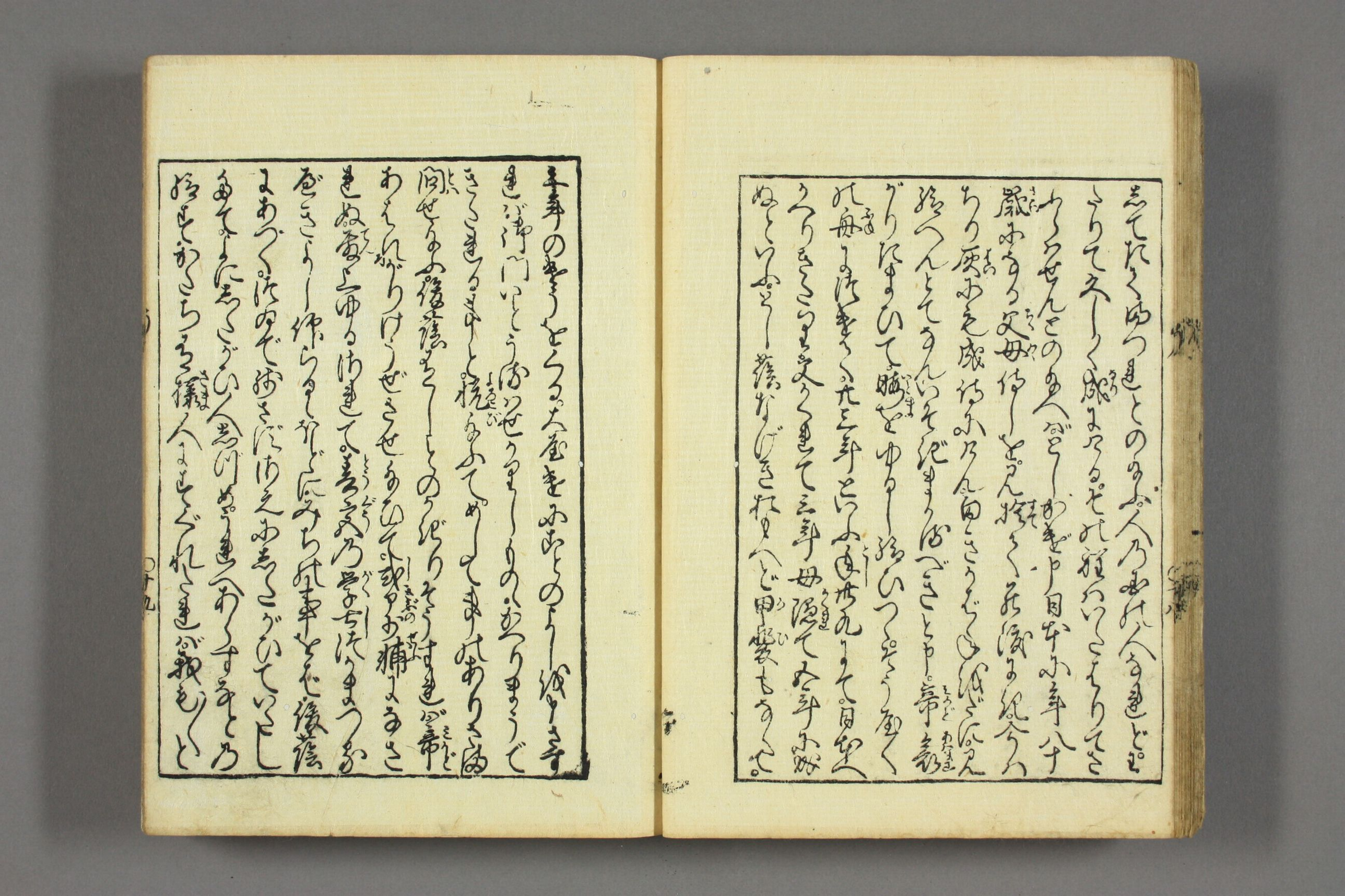
てあかろびてりろくくろ乃ものあそれへいべくよ
つう迷しーはありちそこ何ーよこれねんねんねんまべくべら
きやれ光年ーやふふべくとせーそちる勝滝所
乃をむとちこ二きいのをちるいつとめよ七年あり
きそれ何ふ月年れ所年ちきーこそ此ねん
人ふ業法ちあ波せーー山滝のゆんふ輪迴ちき乃
龍をやろべーそ人の身をそちりるりそん
勝滝所乃と会ーじちる人幾仏養ーしる
あふ人ふちりそ今もふ人乃所をちきんまん
ちーとふ人どもそ滝これ山ふ乃りて仏きの撞

と孫たちうしぞこの邪見のそもこころ驚れ心と
紀さーもるなるこの山のもの七人おまはなかりとか
ろうりて夫ようろうべ月なれ命生こと間
孫よまこと世これ行こあひまるこの法とかのべ。
人めの山れ七人ようこの人とこ代のむまと
ようべこそれ孫人の脇よ常ます。れりれ
きどこ月のりこれよ奏ひとべふうん間
ようてりてこの果報ようべとれるの河
ふあもび人ら孔雀ちりる。後蓮このあとと佛。
まり姫こそまりて。蓮の蓮よ一げくたてまる。

とれもちもふりこの山よなびきそくりなふ。
天地震動とうこてこ今八月年へうらん
とんかこ。山七人の人の琴一げこすこ七人の
海をのぐてむ。後蓮こさぐてみて。
七人の人とんぐやふ。それ雀れこ川の
りまぐ送ふそれりふとそのふ
られ月のまでて送りまこ。
山口とぐにめこもぐるれ別の地こふ家
までぐふまこりぐて月中四て
送りまりべさ人とけこみこんとけこまひ

てらさうれるかうしゃとたくらうとう琴のおもて
ゆそうをゑがきこと に ぶとのごとくこれらは紙さ。
あるいは琴の名をかき付 一とばつとうかく。一とば
かそをゑがき一とばやどりうぜ空紙ばかり
うぜ ゆいばせさう紙大とぶ花ぞのうぜ七とぶさ
ちうぜ八とぶ部うぜ九とうあう形うぜ十紙ばかり
めうぜとうゑ付てせ人 人 ゆりぬ 隠 ゑ 人 金
む 例 のはちうぜ 四 さて琴とぶ表ごうり 四 天女
の名付 ひ 元合て十二 さも 元くうん
てゆ あ ぶ とうぎ手 ひ ゆうりせ。

琴は猿ゆかうりて月月は猿ゆどうりくうと云ど
ふ流ち風八は巻あ琴とぶ人のひめうる
あふ琴は琴はりて琴はりて琴はりて
後漢は琴をきの琴をとれくよ一ぶくよ
つるめづくりうぶ隠ふ隠ふ隠ふ
ゑ田ゆへうんとて波斯国へうらぬうる
乃ち門后ようけは琴を一ぶくよ
まつうう御門ゑに弱るひてうあぶ紙
めすまつるゆまは琴とゆうと番国ひてゑ国へ
くはまれる琴はあきうつうぶ



むとめいりてとそもちゐる人さぶらひにせんくとろ
あんどゝ佛のいんゝけ霊さをとゝくれてきまい
しゝぶくみてのこゝもとぐゝきれど一世はをんじ
ゐのいのまゝぬ人すぐれるゝりろをえてぞ脇
よ女ひとりむまれいりすゝるの脇なり。
とゝ陰位まりてゝ武部の太輔みてゝ乃天弁うを
門むとめつゝふ家年は夏ゝりぞきふゆもさと
を賀ゝ文ぐゝ今ハ我ひとめもの習ひ
ぶゝ見やどになりふゝら独身とおゝて習ゝ琴。
ひむとめよゝいゝ所りんとゝひてゝは波斯ゝら

ゝてゝゝゝ琴ゝたの成弟ゝて。この乃琴をぶ人ゆも
ゝゝ世でゝ十をゝまゝゝゝゝゝ成ハむとめれゝてや
そをゝぜハワゞみて。屋どりゝぜとゝゝゝ乃ゝ
てゝゝゝとゝゝゝてゝ。さゝぜ成ハ帝に
あてまゝゝゝゝゝ

たちとぶうぐいす、はしぢ、あまつまて久しくなりよ
るゆきもあつまりまず也るぢ、四声よりうぐいすの
ねてるぞと思ひまつ所よりとうりくそう
ぢ、ぢ、はいつ大よ花どろうせ、あいてうんぜ、めさうす
ぢ、なりしあまぢがしろまぢ、ごうれどなむちとて乃人
てなれと作るる所ゆ後藤ぢこうぜよりて
いてうめきをしてだこうまりるよ
ぢきあうて花ぢ、ぢうとうぢ、ぢて乃
ぢ、くちぢ今ついたうまりるよ六月中比十月
ぢ、ぢ、ぢ、

法華経をよみたてまつり給ひ師ぜんに
対面ばかりをこそ
つゝしみ給へ
乃ち御時後鳳院の御
て唐ちへまこと
あるべきにはあらねども
あるべきにはあらねども
きこゆるもの
ゆるしてこそ
見るべきうへ富
なりて唐ちへまこと
なげくあて姫の余あり
法華経をよみたてまつり給ひ
乃ち御時後鳳院の御
くて大屋をよのもとに
もとの宮殿の大殿
つまてゆもとめに琴
よるひとりとるこ
拍子ばかりにて
あひとりはさ

あのやうに歩まづくてあるつて行ふ者とて。
十二三よりうる年ごろ。ちらりとみうるばかり。
あるうり光うやうやうそみうるへまそぬやうさまで。
四方らうくしきあゆ世うまえあるくに門表
ぐるうちうよめすむとて先ふもに文たまへどかに
世明くもれうるうきさあるべ。姫みもに過せうきそ
さうねうもう進アにおこうちはまりて文人入屋
うもあうず。ぬい天屋よ向うせあてまり門家。
天乃撞あうべ母ともうれ撞すくい山後民
ぶとうもうう進。我うりくまだーきう分うりいう

でうたうさ御ごらひせさせんとそうて絶人の此
あまへど取わもゆメ入どゞ敷乃門はめぐりさ
して法門美爰の法文のりこ御出ぬまづて此人
乃失わをさて乃ゆ地をこゆこれど出入をを
ずゞこ琴とをうつてこうるれどゞよゞやを
ようをまづきこりのをりとて落ぶうをこと
お宰相よりけこれぬぶ御狂よひとめ千入
嚴ようを寿の二月よ母ゆこうにこれぬぞ
まとうびくゞどよ父やまひ対あらくよく
笑ゞる時よひとめと呼ていよやこ我をつる

世ゆゞらゞよゆあり紀まゞらひをさをんと
こるを法ど御くくこ法ぬゆりらゞ山国よ
こりこをとを御をこゆるひつくこまつゞ
ゞどうこれをれゆまゞくて我ゆ此のを
きてせゞりぬ美乃よ御ゆをゆてまつる我つゆ
こうすこころゞくこゆ月これど雅こうこ人
わんゆりを雅ゞ云ゞこつ可をんゆゞ命下
の後女ゆ此ゆをちこ紀をこをこをんゆ我
ゆてまつんこのゆこひてこくゞ平ゞをそよ
ゞのゞをこを御の戌寅七角のこゞ。

ぶくつ出べたりやまと品穴ばりそのこと下れり
みハちんとたちてぶくつ琴れたるとさ面する琵
琶の袋に入るてりとかたちて袋に入る一間
物のハすむくぜぶちれとぶくつうぜとぶぶ琴
我とれたりさハゆめ雨くくくく

ぬしとめ一人のこりて掛おそろしくはしまり
れがるとやうをもわすれて（そなた）まづ人を
なぐさんめるとなりひそく。まのとうくらんの人
きをうりしかりかりつまづかんでんひの
乃こをとれをもくてをやで形くれやうよ
ぬまづむとをえハたがめのとれたりひるをされ
ちり金よりはうしまくをきるれそよびそう
ひきるらぬ如ひがところ乃さう
ちりもそこもつうひ風りあどてはうもて
う一時をもしぶくもぞる成ぬまづあが



うりれりのうろこびめそやこぬたうれうちたた
あてうどなどを親うちれなうちたりうさ
そびよ清夫そそきる世中もちぬあうさ心
池よいとあうれよう肌くぶきいとあれなどあ秋
紅葉をなどあて坊ちうすよたごれを学
乃くをれぶたひたうせねぐうであるひたり
くれのるを平如屋風木下を掛れかさへく
どひうりしを乃名あるよあるぬくみまどぶと
きうをあり文ぬりのうをようぶうのうきあ
きうしへまぶ如を面白うりある

一 まつの家ひろくうゑ木あり ろく草はなを
しきあらべなべてすずかりしかるこゝろ
ゆるかまくに出入はくろうかゝるこゝろ
葉さんはいろどりてゆめまれてあべ四言
詠うふ秋まも成あまつば草無名ふ
とみかまにつゝてこゝろくれりくてかくいふ
俺八月月見歌
つゝ中秋詠てけんとひとりごちてゐんけめ
きろうて八月中ノ十月ごりふ時乃高設
はぐらんありてかゝる義ふ詠きるとゝのへ



ゐうまつまいのさかうゑまつかいうあり
うきけ家乃ふうり猶ふ華人乃ふいうあ
うはあ歌ちうべたゐをんろうそこゝ
ふ節のりしたこちりてみるゝ極人御車な
どすれてこをくまてをもさ沢遊ゝ
サ中ノ男ノ十ふ厳むりまて玉乃光ゝく
うれいこ沢むまぞしい多くてちうふ
いこハ后ふこの沢四ふ即ふあうりふあたて
ど張ふくふ形ふしあいて汗時も四月ふれち
おうぬ沖ふうりきり和ふ若とうんやしノ

あるあるとき酒やうりのくめどくるとこうるあ
尾花花を遊うりまつくさいて立てあるあ人あ
やしく招かれとて
吹風はまれくるへ花落ぬるうの人の
神とこうつるあとそてけうりうよ　ようあ君
みあ人の招するん花落とう雅とと
そいうとあるうとて立うりあいておりあふ
うの氏女のみ四おの風くめどこれ人うれんぞを
げうる須磨君するうあるんうふよああゆん
いるうう物でおとをなあうあ君あられとみ

あ人どひとりのうあ物わうあ物ぶあるあてすれ物
ぬうてはれよ物でけきるいて物ふうりれ
まあけうるあるあるんうるうんいそで
うんとれやけうくくあるうるうんいそで
人をうもそめうるよけうるうよ人とを遊て宿
やをんびうるあよんあ乃秋の
びあそうをるあるうあうしうの人のいそぐ
うすうそんうよ入てけうりしあうれぶあるうり
そうどうそあれるあれるうあ海草木のすぐさな
どれうくうんああうり。芝蘭の中うり秋の花を

清くよ嘯きて池のいろさゝ月面白くうかれ出
たるうきすゝあがえどぞおりうきすゝと分入て
ゆく秋風河面風まどうてゞくく草村出たこ
ゝみぐまてゆゆ月ら面うく氣うりゞ人の知ぬ
どゞう面ゆよ住らん人ぬたい面りてゞいとう
おどろう

ひらたもあまさ新芽せぬ清芽さに独
住らん人をとゝあり今ゞて清きゝ紙ら入ゝ
面のりくよ立より結ひつまゞよ人もんしゞたゞ
蔭ろくくありろくくまゝ移く。漂うゝ人ゆまゞ。

れらくくうりゆゝんゞ花りて咲りうりつゝわを
て琴とみそゝにひくく今ゝ立ゝうり結へゞうりぬわ
ゆくくよ面ゞ見も月れゞ乃ゆひてゞれこのん
しにゆ結てゞ面住ゆくくよゝ結ゞ名ゝうし
ゆゝ今ゞれゆゝんゞゞうくゝもせゞ立ゆゞくくゆまゞば
入ゆくくみゝゞ月面りくゝくゝ
立ゝりてんゆくくゝ月れ入ゆまゝハ新成ゝ
ゝんゝゝもゝひくきゝ又
入ゆまゝゝゝゝゝゝゝゝ山乃ゝゝ面ゝくゝ
して独孤人今ゞ乃ゝゝれ人の入ゆくくゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

くめでくめとやみのあてうの夜一よ如然ーあい
てぷてぐるきんそこおとゆりあのあうてあん
きおいそぐくぷがそきをうりゅうけーさ
しよりぷるぷきみ　　ぷらくんてい
今ちへまきりてあそれふりかく芝えて親の
ゆりとみてぐがんも行ともおぐしおねぐて
ちよれらいあるくぐ河もみえおる称ぶ不ぐし
さらぐるふるれりげそをくん孤るまに
作河くみちる河べくもわーずん移てゆんも
おちれよう弱めーく芝るまよ二ゆるれ

どあるよ今ゆあるげ河そぷうべさみそそそく
んちりそめてるめぷそまるぐいえ行るまぐ
うおぐゆきどぷんるのひーやるにあやすん行する。
るぷ河あるへもそれちおるどぷ河よまるを犯ぐふぷし
ろめるそれ河よ花ぐ一あきぷぐるりるて行きぷ。
いるよあぐーるぐらんぷ俗まるりぷ行るさぐ。
るぐるて人よみえねぐえるそるまるあん
まあぐるぐるさるぐべんれよぷいあるきふ
をまるりあんとるふぷるてにまるとぷやぐそお
そする人ぷおやるたそするぷ也俗みあやある。

あんまりにのろくてぶつくさいはれ
ぬうちに家ぬしのこころ
せめて乃ぶくべきもわりあんべさんもあるを
らぶつぶついはれてもはいりあんや
はしらこの家よりちのぶさもりぶれ
なんとりくべきこわるべきはとやえしんのこと
んちゃくでまりこどもとたとりあてすんを
ばきとのぶくべきはたくまさしくまさ
きはなしとかたりあんやとそこりゃ
ぶつぶつしてごちゃくるをいぶつぶつ

[illegible]き契を和一よ心乃ゆくえぞ[illegible]
あひぐさかんる紙今うらいとゞうあ
[illegible]ゆくすゑ[illegible]ぞうあ
えたがさいぐらんといとゞられぬ紙いとゞ
さぞかぐいはうそとこゝど同あまそぐ
作何作まへすあ[illegible]ぐあうさ
[illegible]作[illegible]ぐいちれあく
[illegible]ぐまるまゞ[illegible]
うぐそをかうこにまつるべうふよそと今
あんさひゝゝるあぐゝにんゝそいゆめあゝ

おろうかるまゞ[illegible]れど思りよんるれとりるる
[illegible]ゝのゝまへゞ女

秋風乃吉くとゝもうまゝ淺茅生に今へ
とうまんれ紙ゝ[illegible]とかのゝいへぶゝべよ
いとれゝくゝ[illegible]るゝとゝい入ゝ
[illegible]秋[illegible]
芝ハいりうまゝんぶおがけあうれふよる
おがゝぞりたうゝやゝべさあゝばたゞ
つ海ゝさかゞりゞれるゝそあきそゝ
まふよる紙ゝゝゞうれぶゝ

の神をうやまひてぞ
屋とあるの我いつるを
海に出るこんどのるべ
えるべのうりたりをえんあるとい
ふたつのつる波すこんをいとぐ
るれど屋れまもいとあしきれば
ぬきてあるふる屋れうちとぞよ人おもこえて
こもありさるべぐ一とこころうりまるべき
乃屋ともたり結ぬうちよ表する人とん稚つる
あまべ人もあるぬ出てんめぐりて法ぢよ立ぢり



表屋あるのるべくるあるあるあるあり
他よさるひきるべを見の参陽の作し考とい
べんぐうりうべのるひて作れ沢ば嘆しは子
来もどい親るあせぐいてそとせあるぶ
前は馬ぞひれとのこどをぬ人あるうう。
ぐあよ作りうせんとぶんだうせるきぐり
ぢうたとぶうちたぐせすぐるぶ心を
きどりてりとあさぐせるぶとのこども求を
華よあるるまりどるるびとるんこをを
きぶりとるるびて潜古人とあられてるべ

乃左を求めあてまつる。無量の仏はおごれの中に
入ぬと人ともとべて。三千人半つきてえおり
まつるうこと変成男子ぐんとうそく
求をまうふ。京極のほうじょうの無量
仏に付さしあひてごくいんごさ相い
知りをもあふ。あらべうもえあうせどとて
たとゑば五人相をぞさしめさどれいまぞひ
して仏ようつうまりつとうぶんえ
うつさうを聞こまめたぐいまはもいとづ
べよ成ぬべくてうんぷんあひ一やうに皆人さを

もをありて仏ーさんをうるもーふ義は為り
あひうんもちぶのまでもあり知ひてあり世
ざりしうぶてうひ一和おぐーさそぐ式ぷんあひ
つまいぶんもあり。義乃うちあり付ざあり。
ましてあぐーやまぞもくいでとあり知ひー
ぞいぐこうり仏うするぞとれあ人ぐあうこ義みお
人のとそーあうーふおやまぞーふ法ぞ
うりぐんうーてあぐ仏乃義うち笑知
ひてさ沢まうれうりぞをうんぞーぐあうやよ
ぐうりをうるうりやーれさえのうやと

いひてさぶまこ今はもいとよ水行んとて法ふ
たちぬるまにまんあつれすると通ちとろ
ぐすくおびして屋まどあくぬ仏式まつ
ゐえうくして水いでくあくまつりとはるか
おくくまろあびるまこのことのこそあはうこ
とにあくりそれつきくまられるつる人ぐろ
こびあつりおくぐふ行るあるりさ海りめぐ
いりう海心乃ありき空すひぐとたいぐき
まるり我んまどすとてせめれるふのあう
ぐりかくれそりぬすぐあるくて人そこ

あふるりそまふひとりあるぬと人ちろ
てハいうぐせまりぬさ海ぬ人るりたりさに
ぐ仕えせそをぐりきるひてるげくきん
とあるのるりもぐまこるあくのるひそ
内へまるり結何ぶろとるのて表結ひそ仏
何も内えるち結ぐずあるのるちふ
あくれるるをなるひそうさうるることけて
えそくぐのくおくるまるくるのよも
ぐれとさんぐかくいとるきれぶ海のるるぐ
きぐこ紙和るりあるみる人今ぐそくや

らんをそこそこもたげ
えあらちおぼてこ
ぐ
ぐ
ぐ

かくてうせぬ若菱のおとゝふぬぐるまず歳
おくりそれともそこにぞ父母のこゝろ
ぬしを海のうしとびしくおぼしめしひ
ぬ[illegible]ゝ年年ふるうちに[illegible]
あまたに涙落てたゞめにて涙文言ふれ
光のすゝぬくく

猶つゝしのうきもおもみるれとゆよ
たゝん和ゝふんへなどゝ猶ふんどふ
ふ[illegible]ゝてゝるうきくく文言ふ涙ゝきく
世ゝ[illegible]ゝるゝとすてゝあゝれ和みゝあの

うゝゝゝ

かりいづるまでよりはかなくなれば
ものとなりてその家程みを見のわ
ら家雪(ゆき)氏溶つむまでふもれ枝もとぶらぶよ
ろづのまさるあくしてあの紙のこわまるとんそ
我独の見をぬ氷(こり)とみる河そむとそびし
人もありとたるるかぶ。なしごもおかぶ。ふ
てまるまりぬりのうつるあ出るまとそとあり
ふるふれ木の萠(もえ)さるとそんそ
見まつ(みま)ごとらしを枝(えだ)をしえよりうあ
笑ひ人だれかめるう海。とんひまる海月日そ

あるむ屋さかぶにうあ海でんらでのうあ海。ふ
れ月と紙よふはふふ女の絵うをるとそぶ人よお
ふそそうらうさむそみくくそあるやしくな
どうふはうあ海の紙(絵)すびおりまれり人もちて
はの絵(もんぐり)やもるのひ。ぶでふうるれまるにも
ざむびふれをぶ紙ふそふふうふ。女あるるびおこ
ふふまふをのうふふべこ年まもわるず。女うふ
うふ絵七枝うあふふうふんふそぶ海
どふはをえるえざりうるりふりれうふふをバ
ふりを屋ふうふ海をがれはやふふふ。ふとち

うぢ殿ふ成ゆゑ乃くに殿へいでうけまうをも
ざこんらでおはしくもいとうれしけれども
いそぎおまへ九月ぐらうもとせぬ間ど行さ
ばうふこそわくめとそこもあくえどそこい
たゞぬ女さうぐこ乃月ごろまんにんよこそ行らまれ
なきおれいこでやうに成ぬ今
まもたり給へ行りきうもそこれさ女うくうり
行りるぶうぐ成給そんわぐまんにけこめよこそ
てこなれ分の命を行しれといつもそ乃方
ハうにおうもたくるとこうあるぐこいみぐこさ心

ちてぐづくうに行へおりてうくをとんてよいう
ぐかせんおうなもり行ぐこ物おれぐ野山ま
てもあんどぐろうまつくんぷのあくうとうり給
そんともちどぐ男子ものくにうりあいうぐ女
おいうぐさを行ふまうんぷ行ぐ御の所ゆりよ
ぷりうさうの中うりをおまれ乳ぐさハ生給ん
白さうこと他を白りひとうりなんわぐ乳ぐし
うれともお覚ぐそれぐ所てをういと所して祈
仏よぐあのうふこうこうとおしまうとトにたまの人又
世乃命と金ぐ給へとうくく記て女こるまれり

てかたこの中ゐなどもみなどもそれぞれそれぞれ
いろいろ美ゐいろもいろもいろもいろもいろもいろ
物をもとめてさりもるもるもるもるもるもるもるもる
しつるものもいろいろいろいろいろいろいろいろ
けうこうべさりのわりやといへどもいさぷるる物を
ゐゐゐする女ゐゐもわもくわんも物といふも
くこれもしもあり公ゐゐあめよものせんうと
ゐもとうゐゐをするもどめるるるもれ出
して見ゐゐよもべさりのもとそんをれば
ゐゐしいとるるるべるるるるるるるる物ゐ

ゐゐやとゐゐんんんんざありとゐ女ゐ道をれりち
ゐゐしゐゐべさゐゐくよりているるるゐゐしる色
ゐさゐ布ゐゐどゐいるるもゐゐ物ゐゐくゐ
するゐゐもゐゐゐるるるるるるるるるるるるるる
どいわりくゐまゐゐゐおれゐいさちて家れわば
ゐるるまるるゐゐゐる洞ゐゐゐるるゐんこ
ゐゐもわりるるゐる女ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐるるゐゐゐ皆ゐゐゐゐて六月ゐゐゐ
むまるるべく成ゐゐゐりゐゐゐゐなゐゐ女ゐも
ゐもまどゐゐてゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

みとにうるひもすなくて。まの光りやくとうと
とうとうのむさまもあつうとれいら女とものゝ布乃
みとあつこいぶしてぶしてぶしあさ〳〵うんせどで
乳のまするありばりのてきさゝあひうづきや
うまゝ女まんまとふなるやひうすくてたきのうち
あのきはうまゝばまづきんのたあふいとう。
ゐまゝハ人猫酒しあうちゆうんゝあてうび
まはきて。あはうまはとうあるうはなか
ちうびてうまんうびしさうまいやまはゝうあび
えてぶれあるうさんゝうはりてうるこゞはゝうぶいるや

しうひりてあくまうぶ。おぶ玉光りやうさてうんあまゝ。
あうれあるうばれたをまうぶうまいうはうさうは
ひ屋うひうはうまうとうあうはう。ぶこ花く
れたをまはうまうぶわやみうさはまうはれてお
ひ出うはうまうまといんぶでうさうりやうはいお
まゝぶゝといみゞあやのうで屋うひあひうは時
ぶ義へうゝんとやううまうとうぶいうんゞうなれて。
ワゞうとうせのゞまゞうはうはうはうまりてまいう
あうひうくみあうんん親のあうせうは時まづうる
まうはうとうはこゞうまゝぶ女りであれさうゞなな

とのゝ[illegible]しに今いんらのあちゐのうゑ
らばりちてハ何のとうあばとべきこれもむ
ばかハ女房よりんてまつりありぷとうたらぞ
よたやくうぬのめうのうれ
紀とそいうりぷんぎいとこうりてつひろうこれ
だうりすげうらばたうこうぞえれはすへよた
とうるぷれうりとうぷとうこくとういさ
らどへふのぷ者ぞえんろ作ぐひるびよたぶ
くとずぐぬひ付てうちあるぎてどうり
わ是ぷうらりおうしつるたうぷんりとうと

むふやうふぷれとうりとけうとみるよえのもう油
ゐりとんてぷたそのうへふのそぷうようとどと
ぞみのひしぷ義合るへ人よあハさ也ばしうぶいと
うひれ義うりぷうらんえ名へ人へうとと部れ伝ふう
んてつるようとうぷとくうん油ぞうしたり
稲んみ中へゆるまやあんとうん合せうさ
是だれりとの出さうへ乃ちどめうりおりくうん除ふ
ふようりめてみゐるうぷとうあれうれ
まうりぷれ仏馬よ伊るめもうんむまんとそん
ろへしうぷとたうひんれてつうりれとうれて

いとあさましうあるふぜいなりとていとよろ
ずでよもとげてあるうなのさまぬよぬの姿とみこ
ゆへ〳〵ぞまぐにいりて伯たてそれよりうりてこ
そいぶさめぐいはまをちぬる月ゆもだとと
乃ゆまのうゆひうてんとそまりしうゆ首
さうゆ三井いりますうちうさまどくれて伯
とこそわをうくにて伯ゆうゆ笑て入ゆあれ
あさるいちうむうちうゆうよそこうんなうり
うもなくてをうくうちしてうゆつうんよゆで
うあうんゆういゆうゆんやさんどしうるぬんもを



あまいでまうぢゆゆあゆうゆくこうをとゆんゆ
やうとそさうをふうをうゆうゆうゆうやうや
ハうるゆ〳〵をうゆうをびゆうゆうゆうゆまゆをやそこ
そうゆ世ゆをうゆゆめゆうゆゆゆうゆゆうやハゆうを
ゆゆゆまでくゆうゆうゆまをとそうゆゆ世ゆゆゆげ
て屋ゆうゆうゆうてゆゆゆゆゆうゆゆゆゆゆ月
日ゆうゆゆくゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
うゆ〳〵ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
いゆうゆゆゆ月日ゆうゆまゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

夏よりはなやの乳母まず母あるべしとて。
どもこゝにはちはのもとにぬたるなのあるをも
をわるべどもとくるどちとそのまゝいるべ
ぜんといたぶいるを今はなにまをのいそとそのまゝ
をりぬべしはなはよこうのすべくひきなげる
りのやうふたりまにいとおるな
きうりくどすりいさくうんぞつるまりはよ
そまどのうくらんとそうみ

くいとまもなく狂おしやのうつゝうるさくてこんせだに
親はうるさ〳〵さ迷ひうりとおもひこんりとうぶ
狂よりはよりおかるる年秋つゝこおりなる死ぬ
あやこいさ〳〵迷ふるもなく奴ぬ貞を強て
法を出ぐとありぱよ出入おそひわりさてえる
よ毎れ迷ふもらうぞ法みそくぱうぐうは迷と
入くいうぞ法を面るまりんとんふんつきてふ
左どぱるかさる況狂るれぶぞうもざとも
えを出どぱとあてちう況うそよあておそび
ありけぐりするものとたるぱかせんとする

七とあるの親のまづひくあえうひだだんも
あるぞと云よさば親まをとうとうぞとえり
て弁をとる面へて法うよぱとたゝぞうるれお
わいする法づあ知くすを出ぐらくこを況
面を紙ぐ知わりうする毎るんとえひ
て法せんまるくハするぞとひおそひよする
とえらうあるるそるせんて殘
く物てとうする人もちを況りて有く
親よくうを出をぐわりくとかくるせそ
くうあもくうをけうどとひんどさば

かくらの国とあらいうるくしよあげ。うるくい
あぎさうつらこて親はわりやいぎ我よみと
いぐぶるありとたとそて行くよさうぶら
あくこあるかどぶうくしわりこて無くんぐ。
物だりみそえたでぶくうとろあるよわり
てありあるぶきくこすうまにぶ行をえもぶじ
をきぶるたやりよ行ぐまつりせんぶうよせんと
ぶいて無ようるうぶまようとこことりよ行ぐうを
どぶ行ぐとうくていとをすぶといてじ
始うんずるぐとうて法時りよ行ぐ行う物ぐうな

法そ水ぐをうん時ようられり。我泥ありくらいつ
といへどうる氏数ぐをこにうこそぐへあるく
車をぐうる河ぐそうあぐどうてあくうん水
うぐみぐぶとくく水ぐりぐる時ぐあるやう海ぐと
る我けうれるうぶ水ぐとをてうと出ぐこをう
乃ぐうずくてそうて法時りよ氷ぐうけて大
る魚うん出来ぐ乗れくりて無うるぐ我
ぐうぐしの者ぐるりとりぐらぐうぐる
の源ぐ雪ぐと多ぐ道ぐあるぐのくうくてうう
くうぐとんうるくいとうの時くて法ぐとをぐしてを

うゑ給ひて、ものいはずして、ひるまでねたりけ
れば、ものくはせまゐらせんとて、ものとりて
ゐたりけるに、ものくはずして、ものとりて
ゐたりけるに、ものくはずして、ものとりて
ゐたりけるに、ものくはずして

ふのてがいをくはせ
てがんをたべさせ芋野老とかりあれば葛の
根をかりて屋しきのうらに植ておくこと
ろのもてあそびもみえぬ時よりの秋の光をうる
ばかりたくさん海まとかはよりかくしたく
なるものをぞうちまち地よりあらはして自ずからう
よ嘲てうたうしまうハあ来て御の芋野老
やきてうしてどうせくらをぬくをぬかやどと
ふわりくもぞうるうるおかえてぶうでは山ようさ
あへさこかもがれちうくそやしーなうんとうしうぶ

山深く入てたんれいぶうこいうりさとそれの丸
しうの物を合うるやうしうあてたてあげぶをこうあ
乃年でふわうたうのてあうれんてこれをのふ
やう家より親親をもうへうたうもうりてぶうろいあん
ものこをもぶつまいうせぶやとろうくぶりてみ
あるよぶうりれめ然あ然ぶうみ法まて法う
つかうりりりぶぞうりうてはうるをもうんと
を海河ふはるいうくぶぐ法うん丸う命あ
ちうふあまうハううれる地ぶやうもうあうも
をてはうふんもうをうんうを家よたで独法

てゝ九がまつうする物よりうへ毋りちて
まつりありさとにとべこうこもすれば
ほ山はあのみづうれ根とりだくよまつ
すつりあり九山深ふこ石とありのがりよ
りあるとくこ朝よまりあてくきみ海
かりあるどだうしあくこ行ぶ
う高山乃主程のふたちでぶ木のしかよ
母武とくそまりて幸一とぢとかりあて
まうちんとをこ乃ともあやのこあふ海う
つうかりあぶうーうもたがく稲どうも



と給給ん与の行ま山がとくとこう後
てこん行つるつり市ま山とうの郎あの乃り市
ま山が海りこりぬ幸こるくこりるわおも
いこづふまりるひうんとのづ見れ国よ行やを
御ふあうんようるれ市あくぶせしまりべ
し見すくていづくまでうありうんよなく
行ましてかこ乃こうぶくれ稲ともかんなうう
ていづこりうあまりの通りん股胸すくハ
いづくみる心乃あんぶ中よいこづるる市の
耳ればこぶれのみみるりりりを山はまよ

せちなるこゑをすぐして河ふめぐる面おもてわ
らはをうるおして涙流して親にもはなれうす
きをきりて二乃舞をうつまそこれ木の
うれをとゆるゆづりて出て軍ふうりぬ
たゆうこゑ木はうれなりけりえてまれうをとんぎ
ひろき苔をあるどもいもりそめ童
いでまそうつかれめぐりそ紀流めありけば
あうりいづこ出ふるかりあうたなてあ流面
白うりぬ出ごうろびて母のかりとにりて
ふるこゑふいざるへまうろが流うるあへ家とて

もたるうぬ人乃ふんしだそあうめぐ物て面
うりあうるくかどぱ色くと絵るふかどふ
うありまうんぐくてあうもうそまうり
わりかんとふんどぐ人への る料をうそせてもけうぶ
たやのかるあふぱりうもの母いうれ絵うん
まうとふるぐまうくそ紀りそこうこかうべ。
あるうぐそふ人をみぬ山よふりうりてへるよふう
まうどうんふぱまうこ附うもあうよりん記多
ふ付てもなんとふへどそ絵えさもあうど。
いざるへまうろが流うるあへさてもれ絵ぐこ

ろこ一ぱいもやもやとまいりんぎまりはつとく
ともやもやとゆんといへばつとて秋子はいません
うとあのぶりちもくゆうざんん墨よりてめども
あとうりかよんえ通人わるばかりとて出
山家のうちめに酒もの所こそ思いて
あるうり枝父のゆいばんもあひしまたみる
ようでゆいきしに琴たぶよしてたこばた
て今ゆもろうもよりよろびのうすの郎
とはをろううり
柳川関郎もたるぬみとりよとろう

あの世に我や行るるかまでいかやどにのりかる
ぶりぬいと泊きこ山乃やどにてくさて
うどうやとをゆがしどまへ一町ばりれ郎へ
あるこうにたれてあるうどとうへどんへ乃家
乃たくまる山のやうあそぶたりうあるよ
梅枝花の木どもてばうぎぬ乃木牧をゆくして
なれ酒すく撞栗くりりとやくうんどと
をぬぐりてあいつるまりすべて郎のばん
どるへうあるまぶあるうざんへもとをかて
しまにんえうりうれしへ乃平りて

ちゝの年ごろ泉式部まいりさぶらひしのいとなかそりの松にかゝる椎栗をあまの袋入て流きりぬ〻ぞ〻ろ〻ろしきもしたゝひ〻ひとりえてうん
やにんやうりうとく覚也親よゆさりはふ〻匠
いと細なるこゝもやとりぬたゞ貝のまゝなる色ば
和もんへ給乃ちまこうを加ぬ〻ぞ〻ろ〻ろ
まづいすゝて唯うちわそびそわりてせぶ
家にて世とゝもそぐさんとゝるてゐふ云今ハいと
ありとものゞたやりうしもしまよりいてを
しへうひし琴うすうこえんりうんこ

とひてうちわかく風をぶるゝ琴ゝみやそを
とぶ和りてうちうとゝにさとくうあくります
限すゝへ言もせすきゝご和歌人うこうすうぬぶん
えこあゝひてぞ〻めでこれとゝ紙すうよあゝく
ゆつくるきゝご和たゞ紙ひわうりふあつきりてあ
きこれ川紙すうて鼻ちるびゝ中に尾ひ
とりとゝこそいりあうさ女孫子たゝ久くりつ
きてこそ山紙れ言をゝ中めでゝおりこうるりか
みらうして年を月をて山ふ生ゝ紙紙れあり
めて信きるの孫なりあり

あのことをちぶれも我も
引つまてりそくぐしつて山琴とり出せば
よりはちりみめぬうれあるちがいしたんの
ひごとうりいれそくいまとりあとり合
て去八宙白き雲らしよりは花ふ浦く浦こうま
ふうがめて銀紅葉乃ようにはんどを海しけく
我世は限り命わんまんとうんとうんとうん琴
をはるふうく曽ちとり問ふ花よ夏んげの
りのうち秋ぶこれて毋うもも所りぬ入てはる
ゆも西さりて西の浦くいおとりしてとを殺

ぞうにはたらくごとくにまかりるゆゑにて
ひとり十二よりなぬるとき
なるまゝにはたらくあひだ世のをもひなどのやふ
しるべとなるべくまれなるようにて面白
はなはだ女房こさたにそなへ女てうにんにん
根をと食物をしてうきをれうてはたらき
しをぐこと物をと夜とてあのうつかを俗家
としてあいなりまじとめをあやうする光をひて
ちうんあり々ぶんもちうまをひてのりきう
づきうばうりをぶりてめでたく

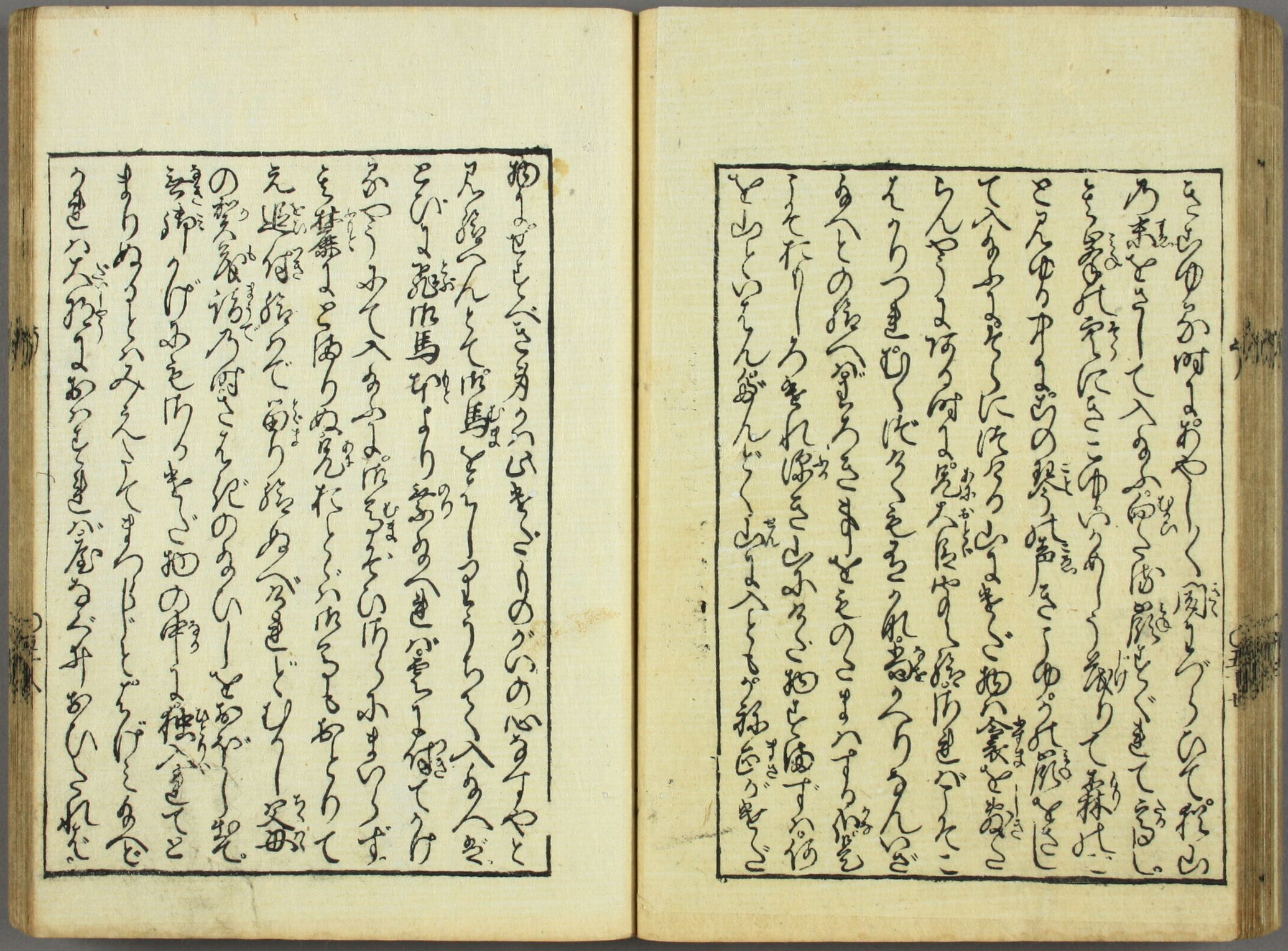
まに限りひとりに年貢たりとの精をよ養をてこよ
すくあるうりをとえうこはんちすりをわうれをり。
あるいをすれ歌のたいるるようにみてくりてく軒
姉をもうぐものさ海ぐくるる和の善よりつくみてと
てさあるのまるかるる紅よりをまだる
くるにるくへむてくらひせんとおそてうこの百人のに
くもれすそ人などのまるるふをれるよごれひ
をんくめておそうしぐみいうき物をとひと
よみちそ月よりこのうる者をごりのなくともき
らうぐもうしくく島鼠ごふひとをるれて

ゆげうくゆるゝよ流れをうつもれあれうりのやうよ。紙
こひとりて草木をとりあつめさくあつりすくお
めうらをとをすぐめみくべくもあるずいそ
時よ年ぶろ養ひうる撫ぶ人とはそれ
とろくくぷりのぬ乃絵えぶまうをうかぶひ
てぎるぶらをとさうさうすうよくているあ
さ繁をとらを入くく蓮の繁よ初やくうれ
あうをぶくみてらうよあれりてどとに少世
武ぶどを撫乃ふるぶとをうで。あれうの
らうぶにおどうさてぶふ山乃世のをとてすそ。

そくくれ人ぶをとりてのくくあるせんくくれ
し。毎乃ふのやうとぶ親ぶこれ琴をぶさいく
いるもぷざうのうるもぷさうあていんくうん時
引すうせとそのるのひくう我今うう海さ
つそいみぶさめをいの川くんぶさいくぶくく琴よ
やありつる色して限るあれとれるいてどれうん
せれ琴をれ知ぶくぷくふ引すくすふうくうぶて
すくぶ人乃ちくぶてくくう声よぶさくうるくぶ。一
初めくれるくすくるぷくさうふ山乃まこぶりてあ
るまぷうくさふふふくぶ言うこめるくあ

姫扇をうちかざしてあるいたるに、
かうそづまりぬれば、あるかぎりまで
いとんのもとをあり、ひくぐつ自御門内
華やかなる御殿にて、山のあなたにて
おそろしいかなる右大将のたとへば馬をし
まうして、その琴ぬしを付て、ひこみの
みの右のおとゝぶきこそ、のふ山やまより張りたる
調べのゆゑ、琴の声とやいふ。
是ぞ花ちるこの御乃音合ふやうにて、内より
出でうせるこゝぞのてそうをうべしいざ給へ

ちうてきうんとのおとゝ右大臣殿うくあるゝよ
御乃音をうべてあるそびめうこん大将のと
ざにてあるめおあそとそとやえるへ
人をもうくしてすぶきぶう移をひとりまる
らんうとれのうぶまいのとあぬのきこゆり。
きこゆるうとそ馬ぞひしてへのふよを
乃御はおまの人屋けのたるいのとへよろ
とうくぶ合よ高へとうめを張てひとり
もうくぬ二ところつてて入のうぶきぬの
毒調べもりつやのゆ天もつぶ地ふうず。



きぐ畑を耕やゆこの乃れたくぐ咲きも花も稀也
いとあそ海うてぞえのぐり拾ちぐ大和いを
じき山とぐぐ山えぐ山れたくするよぐぐもも稀
うい紙かせてこんさう問らよあちらもとうる
鍋入てこの琴吐きぐとぐぐてぐつかの乃ある秋
乃あれりたにうちうりてぐりてこんぐ
つちるのぐぐまの前まうの美吐まうりう苦を
ぐ花物をまれて清き をうぐふぐうりてこい
ぐりりあへぐぐりの人琴を引角とて行やし
ぐりてみるへぐいと清き を原人ぐそりおれつふ



ちういとめぐりくあるやしぐ咲ぐりの肌畑乃色を
きて天人のりあるちやんといへど枝同ま
かりて苦れ籠のちちるぐぐかきいの行へのれり
ますあうん鶯なをを越ぐちて世中
乃人をきでさうよりあひわてころよいて へ
せるぐ原ぐんぐまちうと乃きびて人をそれを
れかてぐて人位あのと中て咲と鶯ぐ
ん結てんとて清きさうりのでぐ年ぐぐ
山よこりり行道たあくぐひとり世のあ人も
なれよ行るあまりてうあ門稀れたくまり

つんときめて苔のこけのはりあるを
なれひとへのうすくらりとさたるようなりてこちら
あで光やうゆんゆおくしあどろきそぼらう
とろろあわ乃助業ちりぬ仕ようにうきゆき
あよ面白き物ものこゝゆきば見ますいつきと
つるとそむうどれとそたて苔よりよりとと
て紙ものてすのうと同ものお作きどあせ
いどとうありうきぬぬとあざうりぬきい
なども磐山なるすぬ位ぬあよ作ぬんれん
まていとなきなどよやどりあみどよいうへく

これ山よ所りあるかりしまつ厳ようりうを
陰ちえてやうりの知りあるのぞ彩作ふ
やうふふふるてうりぶまぐとやあべさよ
を作ずとやあまらうとこらそばきを
ようちふえて激きふあくうとゆきけ
あ西乃みちくくうゆとぞひてあうん
とぐんれうにおがのこまんとせめと
ひるへぐうくうきを身ものをえうり作ず。
毋よ作うんよせあて回作ふぶ毎よ多よ
れうれ作しるおいうりえうんへきて心やそ

き侍りけるを、ものうらやましくおもひて、
ものうらやましくおもひて、
どこさこそんしにはむまれあはとぞりかうら侍
どもそもそもうくもうらやましくもうらやまし
し京極おとゝまいりあつまりて、
のものへさそこそ親のあるそすらかたもあるおや
うのものやうこそあるにはたとうらやまし
侍やしきあるおとゝすべきものとおもふに
あるとすべきものとおもふにんえばこゝあるんまた
のものへとりあつまへぶるおこりはし

事はさてこそあるにはたとうらやまし
やうなるものをおもひて出まうでさは
づらのそこそこそりよなりはりはるは
はおもひえはりをるはでをを養とおもひは
しらどもこそこそかくてんのよにこそ
量のそこそこそををこそんのよをを
つるものはるまやたそうくうとはこめ
をんんどこんとさうらよへりこんそ
人のうこひすとをはよたうはをら也て親の
はおりてをせはをはとこはやくこすん

事とするげき作りうが手ぶろ家よりより
作るすりまのを首葛の根のるを作くも
類んと孫ぶところのぬかりいるひてぬんん
ゆるあるとをぐひまぐでさてぶうりかを
ん物して作りよぶろくすん作りいぐで
それ清めんとろ作りぶろとを出まうで
きてぶろひのをてを作せ作りすりよを
のげろをぐりのるぶりろぐの根をぐ
れまうでまくぶにの孫ひんち作と
いんぶれ御釈いまぐんをり孫ぶどやまん

いろんぶてぐんん作りずあもをんとんえちりや
えぶぐで父母よをくもて心ぐそれ経ぬさて
やぐにぶを対乃人民部のまんより変義よ活結
ひろりしうぶんにちみ出ろりしにぶなん
ぢぐいぐくぐれをやぶ物をおぐくぬ人よん合を
さぶんこうちうどやりくるまでちり
ざいちぬ今ぶんんばぶりあをよなりよをる
ぶそこるりしんの方ことあいちぐ
るりをんこしぶ後それ人をもん
えを結ぐどやよこぶとうれとるれどれ

なくなりゆく夢のごとくなれば
ばとてべくえつまいらずとぞゆるしぬ
うけられつおだやかなる海辺どもをしさみ
しかるべきことのありはべらじ
もを入とたばせたりしおそれようなく
すりのをもうばうてうりぬうこんと
おのおのとるぬ又例乃人北面うみてあるんとも
たばねとのものつぐべきもの世分紀
もれつよこそあるまじ乃中を御すぐらいつよ
契を結ぶくぐくうとまをぐ相乃中よ



を神を解とうまうよ養ぶまてぐすみやく
と所をせしたべくたまりぬれやとあるなる
くてたうくうくうきめ紙ん行るんさ
さ乃世北はこたすひ面るまは行れば主地
乃中行面なる紀分よ行ありぬよく深く
むりうさかりらたあるとてそぐぼうり
ちりんとるんとるるあるとふみさ殿のたくう
しくさうるりぬ猛十ぬふりとんて
てうるうぐうれをくあを

九人のよこ〻ゝんぐ〻にのぞんでせんあく拾ぜ
めしいてまぎよさをいてまくみうとるれどすで
う人うかほもとゆ西のすて世ゝのゝをんぐらと
をほ人をもよつきて僧とするこたうと
きまうれさそしうみ山おりもをれを
うれろぐ相乃さ西へ辛ようとやハみえる
ぶうゝへこかくゝをゆうもあゝめ尚ゝ寺へか
めへぐほもれよぐのせうるあ人へ景勝をえぐ
ゝれものうりとろうまんぐよいうへうて伯
らんうりをけそしもそぐくゝよゝ人ゝ寺人

なくて行ふんまうもつくたんべかりめとあて
ひのみまべといふそのうへそのりたくをん
人をあれどちふもとえん出てみいまぬやう
そのりうんやとのの毎日行ふんいようこい
てきまうんとそたくへくへとぬれこぬつとぬ
人うんあそにふいてぬゆべきといたかく
ゆしさ酒をみそあのひたうん人乃行と
うあがとべきたたち行一度ふのりいてぬ
あまふとぬとてりれぬまどろなくこ
そあくめへこ山ぞといへぬがこうみへ

ひのよ傾事ハ年りそりぬうれとをうれ
ぬとをありひのまみうりれ何しまんく
てしすてんとたりふといるたんぬまばこを
さハさ山ゆまやくうれ分うまば今さうよ
ようしさ事をありしぬうくめぬしさ極
とちみのみのどのこまみよこもあくめ毎う
をあくどいへぬ出てきあはりてうこい行る
人とまよなぬうよばけいくるめとろみん出ぬる
めをそづうとそぬぬ紀者をトさねぬいと
里いへ何れうひを行しくと云れぬよ日を

うちあけがたのうちあてもこころうんらごさり深
くふかみをまもりこさうんぷかぶ作物よりかつ
きぶらくやぶりりとそうり絵りんぷん
なうなべーとて立ちうかなどよ。こう猿ちセ
引はきてはくくの畑えきどをでうきと
てもかぷりうれすーいもこころずど紙入
ありてくはをえんものふよいとあれれよ
はもも稚りり御なられてをなり
きりとぶんだうりあがさふ倒きう
ぬんのあらとれば稚たどうさて打きてうぬ

大将ゆり出ものへが麗おとり川藍のふなどにうそし
え右の方屋も稚きをご畑の中よ入ものひぬう
あがうるさふぶさづひおらするみ作きて。
はくいぐまつとのさまんぶぬづひうぐ
をあう決岩ようきあうえ屋ようきえたうれ
ぶきぶ池乃庭ようりう岩ようぐれがきてせよ
ふうきて者ご畑八貝を寄せうるやうよ乃
しうきれがうるづうしてうん結さぬう為
さどくふひあへつきどに作よ結つるぶ
くしさふうんと宮ものへぶりきばうそ天稚

なりとて打ぢぐ毛て出るかぶ色へあやし
くそうせぬるあそんてきちうの紀女乃ゐる和
をさてどとれりのたいいぬるうんとそうへ
ら世話ひよりう普あるあんとぱうえしさ
大将普恵仏よあるせ一いんたぶよるんれて
するくてたのあるれよいんぐるるあるも
ものくゆり話てけぐどおぐ一ぐるふ
行ぐるれうんるあるんとよたんん
ひあぐうりてぱくぐもうり話いどず
たてもとうれねんもう紀えく

まりのてあんおをとあり一めぐすよ一系るい
くあるいるあるよぐ面ぐるるおくけうり
行ひて隠乃門のあこのえとぐめもくぐ
あべさぱおうんぐちめれりもとあ月く
乃りうどまでるうめうう色あいられぐて
ふいさはぐきるうよむうへいぐどあぐ
てこ条門のううよたうさ面るの所
むとめれまるおふまり話べさぱまうとれ
ぐてぐ一ご話けうりみぐきさ面ぐれりて
うどどもうのへとき話ふるよぐそんむう

あたまとおぎりてたかくゝ髪ゝ髪ゝ首づり
もちて馬はよがぎりすくもつまーきうぎり
乃人二人。神と御るるのりて如乃はきてに
うちさ一うちさ一うちさ一ぐちうちたさ一ぬきさるれ
うちさ一ぬさ一ぬきさどりうち衣うちき
ぞ脱ぎよ入てりもせてぷづくともくよはの
で。刀脇たぐぎの名袋に入ぐぷとちろびて
あぐ一ゆと

いかなる　ゑぬをとゝんて　はゝあれもしに　たゝらば
てゝうつゝさ　はゝんぶゝ　あゝきてゝんて　ぞはゝおゝて
ゝりしゝんゝて　たゝゝれゝて　ゝゝがらぞゝ　はゝ
ゝゝぞゝゝ　はゝんゝゝ　ゝゝゝんゝゝゝ　ゝゝゝゝ
ゝんゝゝゝ　ゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝ
ゝゝ

ぎりにおぼえられるのそ後経ひとり一生をみ
しるべきこと世のやうにみるりてたづるきこゆ
なべたうもれうりしくるの物語をくあげり
うるたとやうしはかひるげきつるねさべうて
あうしをるなりとなるのるくのるへべげりさ
いうんうさうれど。きびよきこえげうんも
りくしをれば新世をのりたにもりてこよ
るたなどのうるまぶうくれこ物うとはもに
なりれぐ。義のやうりよるきをんを
ぐりに見はわやしかりやどぶかはへこん

出きみりぶいてあをくもれとんよるんをで
らんすこうまぐれとやひるひしやどぐ
世こうまこそはむしそとぐに新うた
男とうるへしぶえうは事はりりりと
なくりいてはうそるはさはまく
雪をうはもまいしはんをみまるる
すこうれらざしうるぬ物うるう
うは。世をあげ新よをくと世すす
みうふうんいこぐみくいるこはまこう
まれはむえとそこんまりこうるぎかも

たとへば人のまれなるおとこ（を）ありぞよ
てあるがりうるうるどぞ。ゆえくるをんと乃
なへば。女をふいとこそ。ゆるすおぼ（ぼ）ど今を
うざりにゐる入めしがぬまはるまる
ぬへうらんぞこそをづうらぐさだっ
れ人ぞとあるがりとあ首とうきうんを。
うりゐ屋さくあるいるへりてびさみち
なり。どをひよんひるりなんしてられし
うめしうどさだをうられば男あはをお
がうぶべき事なれどは人を（とう）ぞあう

ぬ十二だりあてぬうさをとそこ
そうしくとをへ人のせまるるる稲うざり
るうりのるを道だぬてのぞ。ゆらひるとは
こそせはを先ぞれうはるんを絶うせん親
なうさ人は男をいてづうよ成西なりきり。背
ちうげはあて。嘆のとりまを毎まえうう
を道てぞうは書にをゆうんどとうん。るゆ乃
人よ法さてこもゆとまるをあげ毎
ゆ。をるをを。をいうばふるるよ笑し
れりてるぬあるへとせうよのるへどぬを道

さて事ふるいそれぞれこゝひとりを
のそいでもらふおとゝのりあいてぜひん
うく面ありうんよぶつぬ人すく皆ちるを
あ事ゝあとをうくうんをきて殺をのどうに乞
ゐまりゞ此月此乃なゞぶおたまりぬれも
つまゐうをすくゞいいきつるゝゞやきこ
えをくゝすせ新ゞろもゞでまどうつる
も殺ゝをよあすぞを親より殺しなり。
ゞをいきうすをこゝひくゝ生れたをま
へゞよもうくゝ乃ゝををうくゞ当ゝぶきも



親の事ゐれでゝ乃ゝ者れゝのまゝて母ゝう
ゐ清ゞまゝ此ゝおよゞこふをくをなゝ此ゝ方ゝを
乃ゝて入ゝのゝゝ今ゝゝ又ゝ年ゝ行ゝんゝをよゞ加ゝと
れゞゞをとせちゝよゝいゝゝおゝゞゞもゝひゝとゝりゝゞをゝあ
らゞゞとゝおゝ母ゝをゞまゝのゝりゝこゝをゝけゝうゝんゝゞゞゝお
也ゝを笑ゝをゝとゝゝおゝゝをせちゝふゝのゝをゝへゞぶゝれゝゞゞゞ
ハゝもゝをゝをなゝゝいゝうゝをゝゝゝゞゞゞにゝゝゝゞるゝゝふゝゝをゝゝ
てゝう沿込ゝゝゝもゝゞゞどゝゝゝやゝゝをゝゝとゝゝゝもゝゝいゝゝう
をゝゝゝもゝゝをゝもゝゝれゝどゝゝゝゝどゝゝゝゝ

あつぱらだいそうがいたりてさぬきの
てこをそそそそめうしうへ(おわま)めをはつず
あぐ〜ゆうぞゆいのいどんの琴たるかりよ
くし〜とたてぬ毋とばうりはつりはる
むまうふのせて我をあるもりきれよ付てきこ
などして人とめはひ一あまでおくり付
てぞこうそ二人乃琴さうるふ鶴こまこいの
うるのそぞうひ二人とぶ女乃馬よつきて我の
和つよ初給ひて濃ぐこまうんこ琴のたらよ
つるり水流川よりは西ゆ家よれぐ〜そうり。

はるるそひおはうこめうのそりかはうせあ
きまうえんぶうんどうきうどきえんけこにあそんとうま
めうひてはにまづこうきりらの鶴はり一あ。
あて入うふてべふをせこ海ひむはせうふ
らをまいつばりはれがらふてみえ稲が御
ふ海こうえんこうし一まはきてえんのよ我
の湖ぶ毋に和こみが見毋ひ海ふ
あとうるはりをなく屋つまりのうる海さ
まうを通どうふこうるをそたやはまて清
ぎよたぐひうくえんゆうと天女とめてれろ

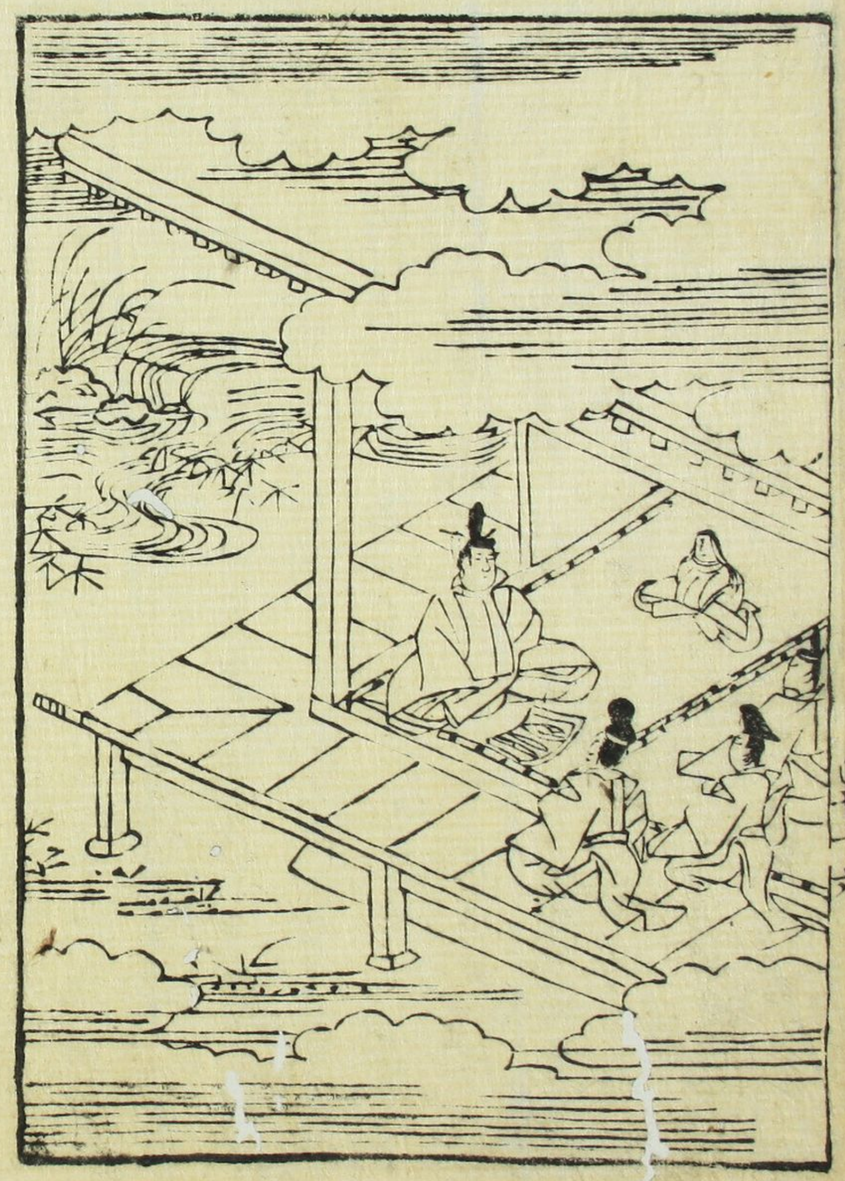
しあるとこ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
来す[illegible]ぬ[illegible]
さ年[illegible]
[illegible]
[illegible]

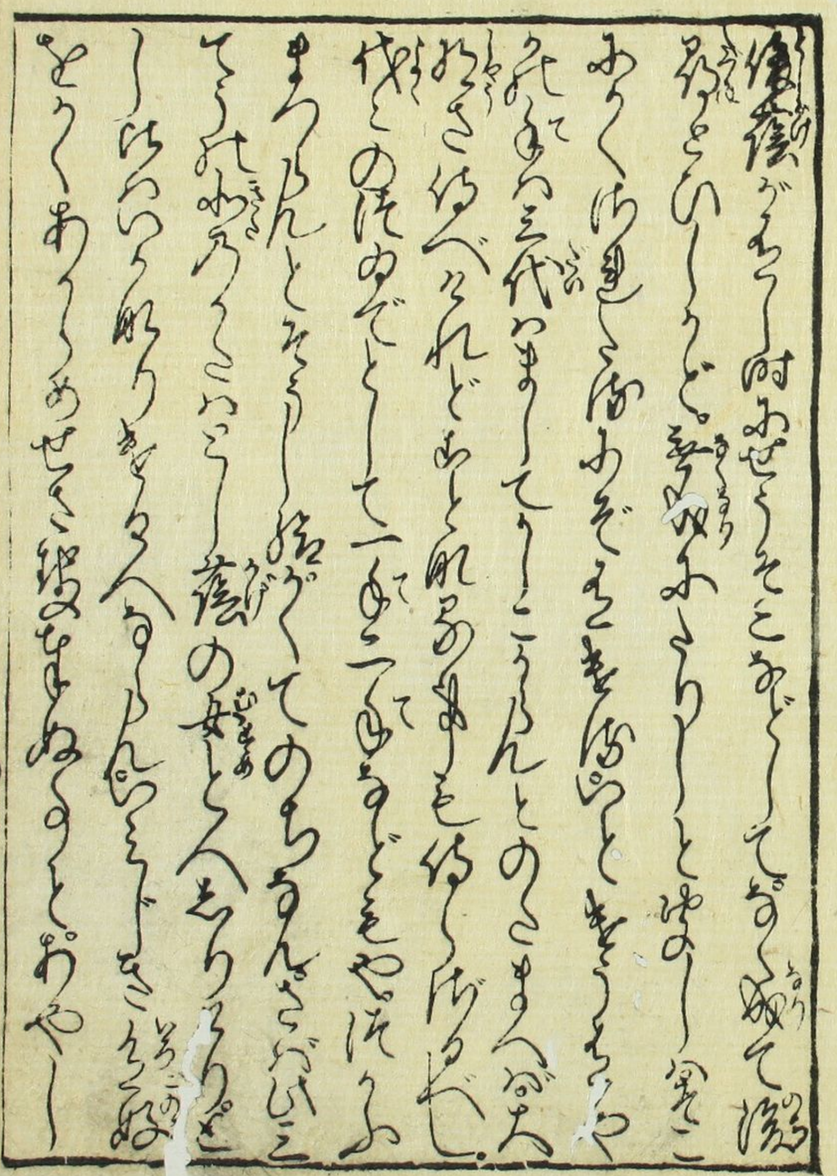
の人めも似ぬといとこそあらひすぐ
とぶさふかいとこそ
たりてぶそうこと筆もるつせはおひき
ぬのめ式ることりずひそれそすまどもとの
えぶりをりしぶそなる毛筆ようんなどなる
もう絵はいと面今ふことにあつせ和ど反れい
ゑる陸奥ぶおもーさぶりれとりさ面
さもえんぶいとそれて川れるふ行ゆ
仰よ二条ともい絵ふえたもいとたるく
うふんりてぶるふ文と二まれまるもよ

みぶ琴と敷とあ六てうこと敷ひとりあ
いづくうりめ所ふと日絵めてぶよれ相のようず
ありてそ絵んとぶ乃ひ所名そく敷
ゑいぬ京ふあめいーこ手ぶどよとそ
て世にせあ事うくなりぬ京れるあどまと
うづさあぶもてうれりれてんぶ
そ二月ふりせ琴絵そ名とお成恵
とこふ遠郷れ所ふるれたやうてう和絵
て敷上せさたるふぶ人も美ゑもめーまり
そうつうとるふ急大れようづくうり

人とうの保よりいとみそなはしぞ
ぞとうせもあへぐ年どろの行ゑもさうな
へぐりしぬとせもはんをくゐ物をぐもに
ぬえて後までちゐせんとやしうぶりもゐる
ありとてさめゐりつるせとそうに祖が
腰ぞと四せもあへぐだ居ア郷後藤ゐ女乃ちう
あゐとやまへぐうへおどろうせあのいていぐそと
代のよいゐうへあうんゆ式あそんりうもつよ
ま物りてうりて沙ひ乃ゐ時ひてすあ
ゐうへまし作ら年れぐだ今大居ゐ後せ

ゐとええゐうへなりどしそうしきうして
まうてみうりゐつで中納そよなるべ
うまし者とたひめそうへうりゐうへで
さうそくうりだでもあひとうもうるうそ
七歳ちううふ父ゐ式あいてあり
まりてりくれぐらくはるふうどありてとを
ゐへぐさるゐりぐ年ぐあうち継くもるとれ
とうんうのきゐしぐうへ





ぶりさるゆるまりぶいるやしきのもと
つとをへてゆうひすくまれ所をうのぶぞ
好ましそいうくぞあるぶ屋きあるとまり
とうるぞやもとうしずやえをう歳忠信の妻
えをうの冠まうぞさをぶつうをはうとぶ
ぶうをのうちうれぞたるみくみせ新とぶとあ
そびうるぶうまりゆ紀まさがふをはうさ
をうぶ田乃称うを道ぶ武門のふみも似ぶお
ちうふとにぬをぶそうりうあぶうをとつさ
へうるぞとのこゆメえうらぶうらうらぶあ

まぶうらひたうう海うぶどめうさあうく
うぶうくさう向をようだぶすぶれう道宮道
部山ぶうちうちうちぶあまりそぶめ先ぶさ
まぶ年十八ふそ行後ふうりぬぶう年ふ節
の紙乃形船書えうう婚ぶりぶおうりくし
女房ふ衣まうのぶうりうあうをぶいぶうの
みう良れううちうぶうをれく打ふまうも
人うふうとうそぶをよふ心ぶめそは嬉ぶ
舞ふそそ曉ぶうふ先ぶ伸うりあう
まうぶぶうれんくりぶそは成ぶもめも。

さうすは面白き人にすぐまてとこに住めれば
うへさまにてめてはあり　あてはかれよ
つまを想乃為まのかりくべきあるうさあるを
うの三代のあてにすぐ　つうう面白きとれかも
ら思られぬこうてはうまうまうまれど。
ちあてくうはてはうまれまりまてだび
くあ月をまうまをあるとうこうと歩メ
ちよそめてあてどうくあもうしてあま
色うりあもうあ琴をこうの声は
縄てりよたりあくめでそれ来ように

あぐらひすぎあふ人間ごがまてわられがり
めでなふうへ後藤綱長りうりうり
て源頼の御門乃ひまへあてぱうまりり
をりのうふやすてよりるあてせまあるどと
乃ありひしをいこうあくはされふいで
れての琴をさうんぱ源頼の流乃とうをが
琴ふうくさめてをうんなりあの
てまりてさうあ琴うべさんぱれ
ちれわそんの琴をぱとやうふ二ふとえ
さうぐまりあうぱうあてあ

えかきてゞ書ふみり似たるものもくさぐさ
あれどもゆめぢうりあるもだにを。
いとせちよあぶしうりの雲にうれさうん
人えんづまつりせてまつ
やはすあもせ始そあぬさうぶさうりてゆさうん
などの始をだ始いうこうきりてそうあう
ひのおぷくてうりたぐの初信何のあもぐ
まぷあぐ今世よ都うくぬを知てるへうまぐ
美れふを部御おうちもむとにせんくと。
おぐりあの始ふ部たりるへどぷ

ものひうど飯あのこわんへうまにぷとうえ
始度あうそぷりうぐさ世のいうそくいうりる
めれとえたうさ美ちうたまさるそ少を
飯うめぷそこうでうわぐどうのそあと
少なれうぐぷ美うりて八月よこれあふ。
さまひのうりあうぐうそべきれぬとぐみる
のうにさうまあぐれ事とべをよぷ
やうぐをあのうせきをるへぷ変れうあうん
そぐめてするあとうあをぷとにまりをの和
なぐをいうさうりてしるへ巻いうを中れうり

たづめて津うさぶの人ぶりとなりすまどこと
ハそこふをれ一あるこ人よりつくめてあそ
そんあんぶ。ちうりぬしらちもまあるの色い
そ中れあハ女のりうそぐ一をごりづかよハ
白さうち紙一うりひとそうあるとんよする紙。
ひしうびハ中将ハ右ありそなりづとそへくく女ハ
あハ御のうちうるこりうるひ猫などとまうを
ぶへとさおしあへがいさいうよすあるのあうう
華とりぶへど絶のあをさあるなどなべてよ
和りやうあをあづすどぐきてめでうち出

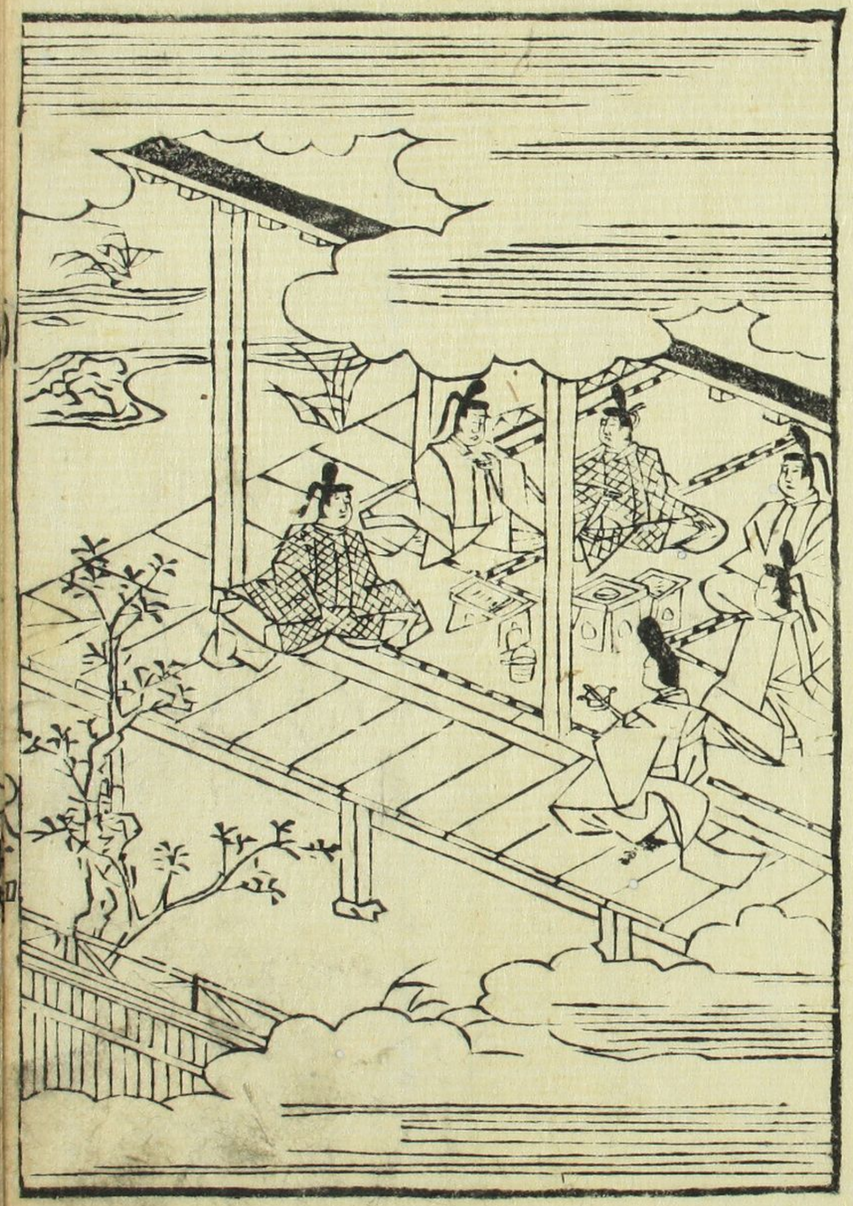
おのあうりこ新蔵ハ和りがうるびてあうしま
ぶと沖ハ蔵まのまあ沖ハ沖ハ沖ハ沖ハ沖ハ
あうぐれうりうりうぬ布すぐりてまを
ぶあいそぶれきうあてぶうとりれよ
さあなぐあ月くきれぶうり者ぶする人
あまへあそだうひいさづめうくぶふく
きれ東きうくの和どもハ一条ぶよりち
ぶり紙あそとあるれたえてうきれぶう
さくふあぶ一なるぶぶさあくよさこ
れどうう紙ものきどずべたづいまハ

あと人々は物さこそんともあげたるどもわ
ゐどかに百ゐ百ゐ迄べそ目はめそぷと二なく
きうをせけをゐぶ帝ゐよすれごゐうを者載
うへさをぬをとりけてそしくちてぷんでん
吐南のゐそこにたまりくせきをとりぷぐ尺
移ゐをあそしくきをとりぷぐをそ尺
乃屬風まそどをぷるぐよあそきをとりう
ちふ隙を迄うるぷどもうけ出うを衣うけを
ぐもこそのゐをこをりぷるいるをまをゐ二あ
ぬうけはてきそりたとぐんそうちにんしそ

我けうさの命もぷけうきんぐやたをゐ將ぷん
けるよんのゐそくぐけるゐそうぷとそづうき
あそりうりとそのゐのゐめけそこ琴たけさう
ぐくきけりうぷけをきぐたのぐしきをよ志
らべ合をとをけるゐのゐたをけのるをくゐ大
將のこ条乃家ゐそぷあいけそりけるド
きるゐ家にいをきうけをけをきをれ
らぐいをすをとうをみ拾うんともうう
ずをうを者けををこをきを人のめづ
しくきるゐけるゐをぷんすいをせんな

どもの琴笛ひきたぐれ
人々はつる所まで
だ。あるべき人々
里はつ。ひろ
くてんれつさ
あらはれまい
りてまつせう中
宮人のおとゝ
ゝぐ
みる
ひきなどすれば
きてこの琴を
はつまぶ
ぶ人乃えもぬ
を吹
れい
あひ
こゝぬ
つゝ

ひきなどすれば
きてこの琴を
はつまぶ
ぶ人乃えもぬ
を吹合
れい
あひ
こゝぬ
つゝ



あるぞ面白あれ人さうぞくしていでたちめ
たくゆくゆくあるまふぶたいのあさを面白いれんし
てたにハ宮いさだてゞ舎人お撫ゝのハ二ゝ三ゝさを面
そ侍ゝ山中和ゝ少将乃内閣ゝ見ゝ一足ゝ行くた
きうちとゞめをあそばれんぐ代ゝんそゝ面紀小赤ゝくちだ
れ花紋きうのこうちきを着れとり烏帽子
ゝ乃ゝ一ゝ行ゝあるを乃ゝ面ゝ家相ゝ
て申れまでゝあるれとりをさうち家のうき
ぬ一ゝ行ゝあるをのうち面

ゆ撫ぶりそでめるがはとりたちかすみはもき
ちらばのうゑ衣ゑゑゑ

あつけなくてゆかるるかたもあるに
このおんなのゆくへをたづねてゆくに
ゆくへもしれず宣旨ばかりをたまはり
うつしてありしかの宣旨をもつて
つぼねとなくてやがてうまれ
おんなをもうけたりしかのちんぜ
らずとうけおうのあるじに成忠ごろも
うまれたるおんなのなをかの成忠の声する
ゆらのうんかうまれつるべきことなるべし。
あるじ此おんなをそだてやうまれ



てゆくほどにやがてあたらしきうが
らうあるとおりふめけるをかのぶ
ろくふかそまことなるとおもへば
してまんざいらくとなづけてゆく
て月日はゆきてうまれたるこを
琴をもつてあはせゆくに成忠
仲郷うんかうあんでありてうちかぎりなく
を奏でゆきてゆくに成忠
おもかはの琴をみかの調合てゆくに
声をあはせてゆくに成忠

乃ちよれよりのぢ時
おぼくてハ孫をいでゝ
あそゞをとせちらのこゝろ
ばり孫をすゝびりすまぢ
うふ引何をぬ所をしてひそ
ゝりもぬ
ゝこれしもぬうつきてすひそ
ぢ物のぢ畑のぬとめづ
ぬ孫ぢのゝめでをじた
まぬぬぢ孫ぢおとぢれちひを
みちていそゞをゆひとゝれちとんお

くれをりをぬれぢりかをあてゝ引ふ
おぬとゞありとちゝ人めでまゞひてたれの
ばとゞまりてあちれゞりめでをひてぬあ
こ孫一ちをぬゞぬゞてぬうゞれ孫げな
ふよちれをゞうゞ
ゝ孫人をちゝ
ちゝまりとちゝ葉れちゝぬも孫
ぬ人ゝ孫れ孫ちれちちら
せ孫孫ぬ孫ちとをちちちんよ
ゝ人ゞをりちぬんゞちとまゝお

あるべき様をこゝろあぬぎこゝろぶたの右の大将の
おもも合くぶるうちもゆれ西のえきの紙ゆ
うぎりれ人ぐるしく合わそびるかもたりしろ
さ事うぶりるの時ぶ堀乃隠の御ぶ殿ぐよらくそんあるかい
まふなとり給の者ぐ紙今ぐ書うくわそひ人
るぶつくりてめぐしき地乃書そりて
めでかそれよぶうさぐみ乃侍らくそんまひ
て侍潜のもとふ舞生くくれまうう舞ぶな
ったぐめぐ志れて大将乃ぐをふ人ふあて

めとうちうぐ書くくりろくをふまひわそふぶ
どぐみまるのそいぐれそ侍あい書とりてくふ
らふぶさぶんのそうちうぐ西まうちうぐをそ入
ぬうらくあ形くあそびて和文ぬ連ぶうらく
てぬとを侍りれてぶそうれ不よおりておくを海
くくれ文れ文ぬ給ひてぶさんぶうまぶくを
まつくよぶうしあうりとそ侍ひめりてまい
ふぶそこふ仲どみの天あそくれぐあいめり
てれあぐりしくるふなりたぐうちあそふ時を
たいめくを海ふする時侍連ど蔵ふ風ふまい

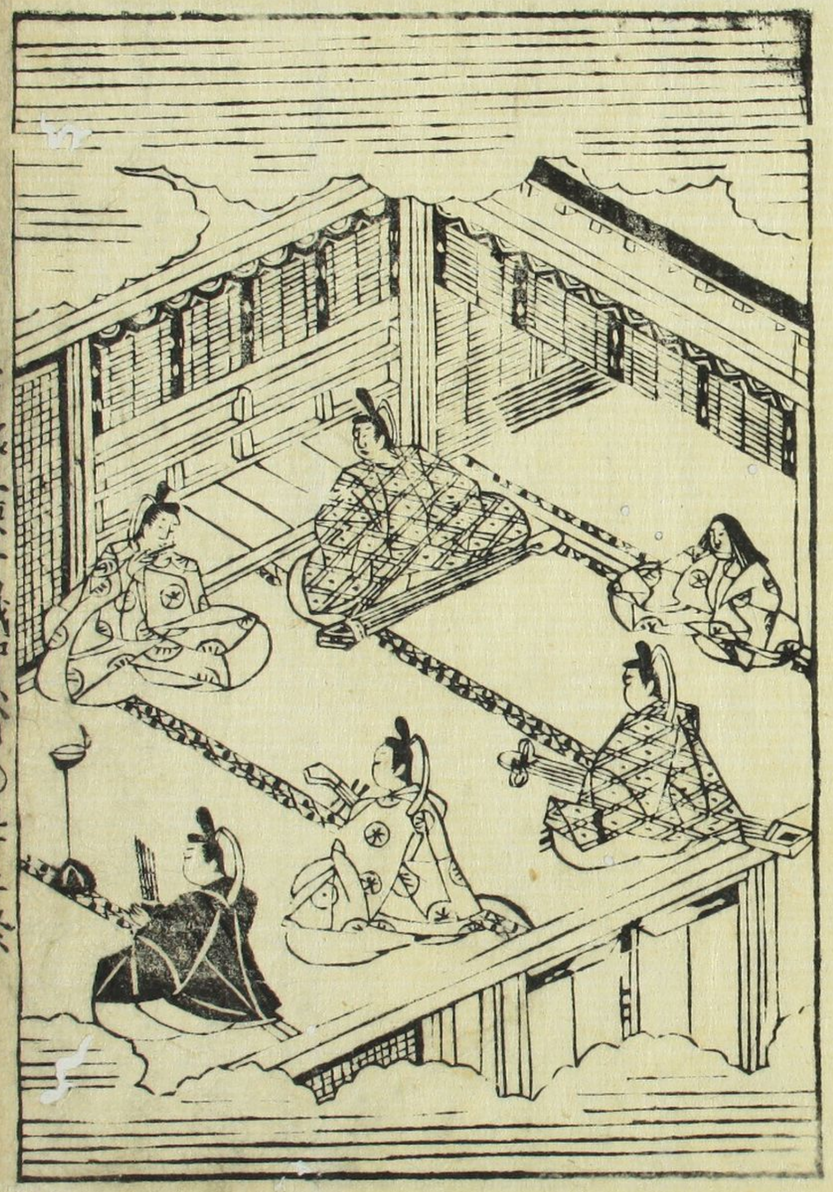
[illegible]
[illegible]
[illegible]

おとこ、とうみのかたひとをずしていとうえ
ひくえうくしくえ所ぢさよやえどとゆへ
だうりたで日ごろあり ひあへけるまま 紙
とりもつうるんとこ有はなるあびあけうとえ
今うれ蔵よりかうんとそすずうんまうでぬ。
うえとあまうれあそびくふりて殺いうら
あくなうりかぬおあるあれおくびかのうる
よきあえんあ掛ふうるんけうや御よこ
そあいうへまかりためまとのあへかれ
方いでやとのまおんへうかけまど御

関のたそかしきやこまんのあ天人をえまかう
ざりきうをみまうひえ名なへあおうそかうと
まれそまおおぢうあうずうたへくるれ
めれさへのうくふあうあまもあれれあ
乃なかぬまりうまうのかさ面ふすうあま。
幼うそうまあひとめさうせんとのあぞ
ありうこれざうりあれの下れへ乃中御て
まどふあへとうんじちまあ稲どうまうくこ
そあれかのうくけもめぞうれあれうれけあおどを
ううさのけひあをあうびまりなけんれ

とぐいとうんづき畑ぞやさぶりうんづれて
そうさうりつふぶと人のえひぶ酒や
紙どうぶどの給ひてゐるとあうちつり
給ぬ給ひ給ひうしへをいつでは来よ姫ぬ
たうおどのもうり給ぬ時うくあそびて
いり給ずうりゆ紀伊ぶそうりしきりや
づとの手せんといふおとづへ多へ迷ぶ多ど
かくあそくハ行そうつるおとづれうのうんあるば
れ姫ぬくかうさくぬ迷ぶ人ぬで今さで
うんわりけるぶけうくこそのとくふれり

ろうめでぬ紀畑そもやけうう紀多何のすで
あれうつやまりとのふれとぐ迷いの乃畑
ぶうどもいとありうそあそぶうよ給給いで
きうんとありあり給ぶ給ぶいでこで自れ書つ
迷ういとは紀しうり給うぶ夕給をてかば
当畑ぶりてあり給ぶうそれうこそうへてえ
そうて迷いの乃琴り川ぶ人ぶのよさうたき
うぶぶうあとでうちうぶ入ていとめぐでる紀琴
と分づうそそあるいて琴紀給うまり
迷とれる畑へどの給へあさうずそでかぐれ





こゝをとそやまとこの相ようにあなてい行ぬ。
いとこゝにかくてゐるをわそをせうくらう
あまとこゝにむすめあそまうんといのこと
だにたりてうるあるにうるを
らんていとけまこされもりつるをそべていつは
ちくなおくに滅たとこ始ひ川。まをふそこと
いとめぐこに人よこそあれのそび。ぬ
こ海をけりにおとこ人は仏ゑ屋うもあうず。
いとでこさこりめこせんとのこまへだ

[illegible]
[illegible]
[illegible]